

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10304		単位数	4単位	対象	1年	開講	通年	
			科目ナンバリング	W-BESE1-00.H		時間	60時間	学年		学期		
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	石田 和男				授業形態	演習	単独		
授業の概要	〔授業の主旨〕 〔キーワード〕： 小論文、読む、書く、話す〕 小論文の書き方についての基本的考え方、そして技術論、そして主題についての構想力の訓練、そのためのグループ・ディスカッション； 聞く、話す、書くことの実践。そのためには普段から本を読む習慣をつけておくことが大切です。そのためには自分の身体をマシンとして機能アップさせることが肝心；呼吸法；呼吸法、発声法、イメージ作成法、フェルトセンス開発・・・そして実際に主題を対象にマシンを動かし自己開発してゆく。											
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 身体を使った表現を増すことで、自我に自覚め、自己意識を持つ。そのことでより抜本的に自分の学びの方向はより一層安定する。それから、行動を行う（地域における社会的活動）。そして、自分の可能性の中心が見えてくる。											
到達目標	そして、読み書きから自己表現へ。そして行動できる、実践的主体として活動できるパーソナリティを形成していく。											
授業計画												
回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考					
第1回	論文の書き方	目的、対象、類書	グループワーク	第16回	「信念」	肉体内の血液の運動	グループワーク					
第2回	問題の場からトピックへ	時間表の作り方、トピック	グループワーク	第17回	「神話の終わり」	健康の真似ををする	グループワーク					
第3回	資料探し	仮読み、カード目録で探す	グループワーク	第18回	「想像力について」	肉体から切り離された魂	グループワーク					
第4回	研究の準備	参考図書と文献カード	グループワーク	第19回	「精神の病」	不幸の重荷は幸福な人に	グループワーク					
第5回	読みと整理	研究カードの作り方	グループワーク	第20回	「気で病む男」	首をすくめ、肺の空気を入れ替える	グループワーク					
第6回	確実なデータ作り	内容、目的、起源、ドキュメント	グループワーク	第21回	「微笑」	自分の筋肉を解きほぐす	グループワーク					
第7回	書く；アウトライン、文章化、下書き	幹線のわかる構造	グループワーク	第22回	「惨劇」	死んだ人は治癒している	グループワーク					
第8回	清書へ	注と文献表、総点検、出来上がり	グループワーク	第23回	「死について」	人間は死を待つことができない	グループワーク					
第9回	小論文の書き方	小論文のアイデア整理	グループワーク	第24回	「態度」	緊張を解くと生命の機能が増す	グループワーク					
第10回	読む	理解する読み方、読む技術	グループワーク	第25回	「体操」	咳止めドロップの効用	グループワーク					
第11回	話す	文法、論理、レトリック	グループワーク	第26回	「折り」	当然の結果の不条理な説明	グループワーク					
第12回	アラン『幸福論』を読む；「名馬ブケファロス」	苛立ちの原因	グループワーク	第27回	「予言的な魂」	半ば目を覚まし、夢を作り直す	グループワーク					
第13回	「苛立ち」	肉体の運動に従うこと	グループワーク	第28回	「我々の未来」	底荷を捨てて風向きに従え	グループワーク					
第14回	「悲しいマリー」	血球の増減が原因	グループワーク	第29回	「楡の木」	足元を見て、行動せよ	グループワーク					
第15回	「ふさぎの虫」	我慢が肝心	グループワーク	第30回	「心づかい」	決して顔色が悪いと言わぬこと	グループワーク					
評価方法及び評価基準	平常評価（ディベートの勝敗は評価の対象にはしない。むしろ、毎回、どのような姿勢で取り組み、ディベーターとしてどのような議論や質問を行い、あるいは、判定者としてどのような判定を行うかを重視する。）											
課題等	アーキュレーションの練習を通じて、発音の自己開発ができるようになること。はっきり相手に音を伝える学びをする。											
事前事後学修	事前に、自分で発音のイメージトレーニングをすること。本をたくさん読み、感想文を書くこと。授業後に何を学んだかノートに記しておくこと、1ヶ月ごとに提出すること。											
教材教科書参考書	『論文の書き方』澤田昭夫、講談社学術文庫。ISBN:4-06-158153-8 『幸福論』アラン、白水Uブックス。ISBN:978-4-560-72098-1											
留意点	演習のため、学生の主体的な参加が大切。みんなで作る授業。たのしく一年間一緒に学びましょう。											

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10305		単位数	4単位	対象	1年	開講	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-00.H		時間	60時間	学年		学期	
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業形態	演習	単独	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>年間を通じて、いわゆる「ディベート」を行う。すなわち、一定のテーマについて、例えば、賛成/反対といった立場に分かれるなどして、互いの主張を展開しつつ、相手を論破することを目指す。テーマの選定、司会進行などは、基本的に、履修者が行う。また、テーマの選定のために、図書館の利用や、インターネット等の活用も、適宜行っていく。さらに、ディベートの判定・評価も学生が行う。その場合、自分としてどちらの立場に賛成か・反対かではなく、どちらのディベーターの方がより説得力あるディベートを展開したかで判定する。また、そのように判定するについて、どういうところに説得力を見出したかをコメントすることも併せて求める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している</p>										
到達目標	ディベートを通して、「倫理的に考え、丹念に調べ、しっかりと発表する」力の修得を図る。議論を恐れず、むしろ議論に親しみ、楽しめる位習熟すれば、たとえば、将来社会福祉の専門職として、援助過程において他専門職との間でも、有意義に議論を重ねることも大いに期待できよう。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ①				第16回	ディベート	ディベートを行う			
第2回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ②				第17回	ディベート	ディベートを行う			
第3回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ③				第18回	ディベート	ディベートを行う			
第4回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ④				第19回	ディベート	ディベートを行う			
第5回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ⑤				第20回	ディベート	ディベートを行う			
第6回	ディベートに向けて	模擬ディベート				第21回	ディベート	ディベートを行う			
第7回	ディベートに向けて	模擬ディベート				第22回	ディベート	ディベートを行う			
第8回	ディベートに向けて	資料・情報の収集				第23回	ディベート	ディベートを行う			
第9回	ディベートに向けて	資料・情報の収集				第24回	ディベート	ディベートを行う			
第10回	ディベート	テーマの設定				第25回	ディベート	ディベートを行う			
第11回	ディベート	ディベートを行う				第26回	ディベート	ディベートを行う			
第12回	ディベート	ディベートを振り返る				第27回	ディベート	ディベートを行う			
第13回	ディベート	テーマの設定				第28回	ディベート	ディベートを行う			
第14回	ディベート	ディベートを行う				第29回	ディベート	ディベートを行う			
第15回	ディベート	ディベートを振り返る				第30回	ディベート	ディベートを行う			
評価方法及び評価基準	例年と同様に、ディベートの勝敗は評価の対象とはしない。むしろ、毎回、どういう姿勢で取り組み、ディベーターとしてどのような議論や質問を行い、あるいは、判定者としてどのような観点で判定を行ったかといったことを評価の対象とする。										
課題等	特になし										
事前事後学修	事前学修に関しては、ディベーターとしてディベートに向けた準備を綿密に行うこと。事後学修に関しては、ディベートで得られた知見をしっかりと理解できるようにすること。										
教材教科書参考書	特に指定しない。										
留意点	どんなに熱い心を持っていようと、ディベートの勝敗等に感情的になりやすい人には履修をすすめない。										

科目名	基礎演習 I	科目コード	W10306		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-BESE1-00.H							
区分	基礎教育科目 必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 前期：岩波新書程度の文献を読み、書物を読むことに慣れ、レジュメを作成して本の内容を説明することが中心となる。 後期：前期に続いて、文献を読む。図書館で文献を検索し、論文の検索方法を身につける。ディベートを行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕									
	学問をするにあたり、学び方の土台を学ぶことによって、丹念に調べ、曖昧な知識ではなく、事実に基づいて論理的に思考する力を身につけることが、このゼミには求められる。									
到達 目標	学問に取り組むうえで、最低限必要となる基礎的な力を身につける。曖昧なネット情報のみで発言する学生がいるが、科学的根拠のある情報を合理的に入手し、それを読み解き、人に伝えたり、意見を交換することが出来るようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ゼミ開き	自己紹介・ゼミの概要説明		第16回	読み書き報告①	岩波新書を読んで報告⑩	サブゼミ・プロゼミの運営			
第2回	読み書き	文献の読み方およびレジュメの書き方		第17回	読み書き報告②	岩波新書を読んで報告⑪	サブゼミ・プロゼミの運営			
第3回	初めての報告	岩波新書を読んで報告①		第18回	読み書き報告③	岩波新書を読んで報告⑫	サブゼミ・プロゼミの運営			
第4回	報告に慣れよう	岩波新書を読んで報告②		第19回	読み書き報告④	岩波新書を読んで報告⑬	サブゼミ・プロゼミの運営			
第5回	判りやすいレジュメ	岩波新書を読んで報告③		第20回	読み書き報告⑤	岩波新書を読んで報告⑭	サブゼミ・プロゼミの運営			
第6回	図書館利用の方法①	図書館探検		第21回	読み書き報告⑥	岩波新書を読んで報告⑮				
第7回	奥付とは	岩波新書を読んで報告④		第22回	図書館利用の方法③	文献検索自由自在				
第8回	章・節・項	岩波新書を読んで報告⑤		第23回	ディベートとは	ディベートの基礎知識				
第9回	単行本とは	岩波新書を読んで報告⑥		第24回	ディベートのテーマ	ディベートのテーマを考える				
第10回	雑誌論文とは	岩波新書を読んで報告⑦		第25回	ディベート、その前に	科学的根拠のある意見とは				
第11回	目次を見よう	岩波新書を読んで報告⑧		第26回	図書館利用の方法④	文献検索実行				
第12回	あとがきに注目	岩波新書を読んで報告⑨		第27回	ディベートに臨む	ディベートで対戦①				
第13回	図書館利用の方法②	図書検索をしてみよう		第28回	再びディベート	ディベートで対戦②				
第14回	前期レポート執筆①	書評とは何か		第29回	ディベートで書く	議論した内容を文字にする				
第15回	前期レポート執筆②	書評を書く		第30回	一年間のまとめ	ゼミの成果を確認する				
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点70%、レポート（上記到達目標に照らして評価する）30%									
課題等	毎回、全員同じ範囲を読んで、レジュメを提出すること。範囲は、その都度指定する。									
事前事後 学修	一般的に大学における学習は、文献を読むことを前提としている。そのことから、岩波新書を毎日1頁程度読むことになる。読んでレジュメを作成すること。またその際、読めない漢字は、漢和辞典で調べ、判らない意味の言葉は、国語辞典を中心に調べて、テキストに書き込んでおくこと。									
教材 教科書 参考書	森 靖雄 (2014) 『シリーズ 大学生の学びをつくる 大学生の学習テクニック』大月書店、ISBN:978-4-272-4132、川崎直宏 (2022) 『これからの住まい—ハウジング・スモールネスの時代へ』岩波新書、ISBN:978-4-00-431924-5									
留意点	辞書類を必ず持参すること。電子辞書可（ただし、充電しておく、電池のスペアを持ってこることなど、不測の事態に対処できるようにしておくこと）。									

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10307		単位数	4単位	対象	1年	開講	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-00.H		時間	60時間	学年	学期		
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	棟方 達也				授業形態	演習	単独	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>・1年次の所屬先として、ゼミ生どうしのコミュニケーションや親睦を重視します。・演習としては、書籍、マスメディア、Web等、様々な情報源からスポーツに関する題材を取り上げ、課題を見出し、考察します。(情報リテラシー教育、ICT活用) また、合わせてpptを使用した報告、発表の仕方を実践的に学びます。(プレゼンテーション能力) ・ゼミ伝統の「岩木山登山」は必須課題です。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2及び3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>										
到達目標	スポーツや身体に関する個別研究(各自で研究課題を設定し、適切な方法で調べまたは実践し結論を出す。)をレポートにまとめ、発表(ppt.)する。										
授業計画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考		
第1回	顔合わせ	ガイダンス、自己紹介、スケジュールの確認等			第16回	岩木山登山報告	報告書作成と振り返り(行動記録、写真等を整理し、報告書にまとめておくこと)				
第2回	親睦	レクリエーション活動			第17回	個別研究に向けて	個別研究の構想から発表までの流れを確認する。				
第3回	大学における学習活動の基本事項	『学士力向上のためのガイドブック』の解説(事前に目を通していただくこと)			第18回	個別研究：計画1	・テーマ設定 ・テーマの絞り込み ・構成 (日頃から自身が関心の持てる、スポーツや身体に関するテーマについてアンテナを張り巡らせておくように)				
第4回	情報源と情報収集1	文献の調べ方			第19回	個別研究：計画2					
第5回	情報源と情報収集2	いわゆる「ネット情報」の扱い方			第20回	個別研究：計画3					
第6回	情報の収集、整理、報告1	スポーツに関するネット情報の収集、整理とその報告 出典の明示と信憑性の確認 等			第21回	個別指導1					
第7回	情報の収集、整理、報告2				第22回	個別指導2					
第8回	情報の収集、整理、報告3				第23回	個別指導3					
第9回	情報の収集、整理、報告4				第24回	個別指導4					
第10回	情報の収集、整理、報告5				第25回	個別指導5					
第11回	親睦	ランチパーティー			第26回	個別指導6					
第12回	岩木山を知る1	岩木山の登山計画に必要な情報を集め報告する		グループワーク	第27回	研究成果の提出	内容の最終確認				
第13回	岩木山を知る2	岩木山の登山計画に必要な情報を集め報告する		プレゼンテーション	第28回	報告集作成	全員のレポートを印刷し1冊に綴じる				
第14回	登山の計画と準備	計画の立て方、地図の使い方 コース計画、装備計画、飲食計画 他			第29回	発表の準備	発表用ppt.作成(冬休み中に準備しておくことが望ましい)				
第15回	ゼミ登山	岩木山登山(夏休み中)		フィールドワーク	第30回	発表	ppt.等を使用した、研究発表会		プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	ゼミへの参加状況(出欠、遅刻、早退)、前期課題および後期の個別研究を点数化し、総合的に評価する。課題については、指導に従い、指定された形式でまとめられているかを評価する。また、特に個別研究では、オリジナリティを重視する。										
課題等	より信憑性の高い情報を求め、その情報源(出典)を明確に示すこと。										
事前事後学修	Web以外の情報源(本、雑誌、新聞 など)にも目を向ける。										
教材教科書参考書	『学士力向上のためのガイドブック』										
留意点	パソコンを使用したレポート作成や発表を原則とするので、各自、ノートパソコンを所有すること。										

科目名	基礎演習 I	科目コード	W10309	単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
区分	基礎教育科目 必修	担当者名	高橋未央			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 文章の作法について学ぶ：①説明的な文章を読む ②他者の説明や発表を聞く ③質問をして理解を深める ④これらを繰り返して、「批判的に読む・聞く」「自ら調べる」「論理的に説明する」ことを練習する								
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 DP3、CP1に関連している								
到達 目標	論理的な筋道をたてて発表原稿をまとめたり、事実をわかりやすく示す図表を作成することなどの作業を通して、調査やプレゼンテーションに習熟すること								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ①	指定した文献を皆で分担して読み、ゼミ時間中に発表することを通して「文書」の書き方を学ぶ。「文書」の書き方は、大学でのレポート等を書くときに役立つほか、自分や他のひとの話しを整理するときにも有効である。また、分担分の要約・発表を通して、本を調べながら読むこと・人にははっきり話すことに慣れていき、他人の発表を聞いて、質問することで、理解し疑問点を整理することを体験する。 内容をまとめた「レジメ」を各自作成し発表する。準備段階で、発表に必要な資料を用意し、それを発表時に示して話すことで発表の方法をさらに向上させる。各発表について全員が必ず質問し、理解・思考を深める訓練を繰り返す。	ディスカッション	第16回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ①	指定した文献を皆で分担して読み、ゼミ時間中に発表することを通して「文書」の書き方を学ぶ。「文書」の書き方は、大学でのレポート等を書くときに役立つほか、自分や他のひとの話しを整理するときにも有効である。また、分担分の要約・発表を通して、本を調べながら読むこと・人にははっきり話すことに慣れていき、他人の発表を聞いて、質問することで、理解し疑問点を整理することを体験する。 内容をまとめた「レジメ」を各自作成し発表する。準備段階で、発表に必要な資料を用意し、それを発表時に示して話すことで発表の方法をさらに向上させる。各発表について全員が必ず質問し、理解・思考を深める訓練を繰り返す。	ディスカッション		
第2回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ②		プレゼン	第17回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ②		プレゼン		
第3回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ③		プレゼン	第18回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ③		プレゼン		
第4回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ④		プレゼン	第19回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ④		プレゼン		
第5回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑤		ディスカッション	第20回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑤		ディスカッション		
第6回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑥		グループワーク	第21回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑥		グループワーク		
第7回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑦		グループワーク	第22回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑦		グループワーク		
第8回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑧		グループワーク	第23回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑧		グループワーク		
第9回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑨		グループワーク	第24回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑨		グループワーク		
第10回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑩		グループワーク	第25回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑩		グループワーク		
第11回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑪		グループワーク	第26回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑪		グループワーク		
第12回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑫		グループワーク	第27回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑫		グループワーク		
第13回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑬		グループワーク	第28回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑬		プレゼン		
第14回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑭		グループワーク	第29回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑭		プレゼン		
第15回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎 ⑮		グループワーク	第30回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践 ⑮		プレゼン		
評価 方法 及び 評価 基準	レポート 60% 授業の参加状況（発表・質問の回数など） 40%								
課題等	適宜								
事前事後 学修	自分の担当箇所の発表準備と他の発表に対する質問の用意								
教材 教科書 参考書	前・後期に講読する書籍								
留意点	題材にする書籍の購入が必要となる。必要に応じてオンライン授業アプリを使用することもある。								

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10310		単位数	4単位	対象	1年	開講	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-00.H		時間	60時間	学年		学期	
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	西東 克介				授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕										
	<p>〔キーワード：事実と意見の違い、感想文、作文、小論文、レジュメ〕小論文の文章作成能力を身につけることを第一の目標とする。学生が自分で1年間の発表テーマを決めて、順番に発表していきます。発表内容についての疑問・意見等を発表者以外の学生が述べ、発表者が回答します。この繰り返しによって、発表の技術・方法や疑問・意見の案出等について学んでいきます。この能力は大学ではもちろん、社会にでてこの能力が弱いと困ることが多い。よって、本演習は、学生がこの能力を磨き上げるために、自らの課題を認識していくための機会です。本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」と活発なボランティア活動を育み・身に着けるには、文章力も大切な基礎力となります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>DP3、CP1に関連している</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「意見と事実」の違いを前提に、小論文・感想文・レポート等の違いについての理解し、小論文作成能力を身につけます。 ・できれば、レジュメを作成する能力を身につけ、これを使って発表ができるようにしたい。 ・少人数で質疑応答と話し合いができるようにしたいが、これをもっと難しい。一人の自立した努力が周囲を引き立てます。 										
授業計画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考				
第1回	本演習の概要説明	自分で発表テーマを決めることの意義		第16回	マンガとアニメについて	我が国では非常に多くのマンガとアニメが生産され、外国の人々にも人気があります。					
第2回	講義とは何か	大学の講義とその意義		第17回	映画について	映画は娯楽産業と言われて久しいのですが、それでもかなり作られています。					
第3回	演習とは何か	いわゆるゼミと授業（講義）での演習と実習の違い		第18回	ドキュメンタリーについて	素晴らしいドキュメンタリーを数多く見てください。					
第4回	実習とは何か	実習における一般に重要な事項		第19回	テレビコマーシャルについて	テレビコマーシャルとインターネットによるコマーシャルについて考えてみましょう。					
第5回	作文とは何か	小学生の頃から書いてきた作文とは		第20回	テレビニュースについて	テレビニュースについて考えてみましょう。					
第6回	感想文とは何か	感想文とはある作品（対象）について自分の意見が述べられていることが必要です。		第21回	民間テレビ局について	民間テレビ局が国民に与えてきた影響について考えてみましょう。					
第7回	エッセイとは何か	エッセイとは、論理的ではなく、自らが感じたままに書く文章です。		第22回	民間ラジオについて	それでもラジオは生き残っている。					
第8回	レポートとは何か	レポートは「報告」と訳されます。基本的に調査した情報をまとめることです。最後にまとめた人物が自分の意見を述べるか否かは教員次第です。		第23回	NHKについて	NHKの受信料と政治的中立性について考えてみよう。					
第9回	小論文とは何か	テーマについて論理的に展開していき、結論を述べる短い文章。		第24回	テレビと番組制作会社について	テレビ局は多くの番組を外部の制作会社に委託している。					
第10回	図書館について	自らの思想を自由に形成する場所であり、利用者の情報を保護します。		第25回	芸能人とプロダクション	スマップの解散問題が国民的関心となった。芸能人とプロダクションについて考えてみよう。					
第11回	全国紙の特徴	読売・日経・産経は保守的指向が強く、朝日・毎日革新的指向が強い。		第26回	小説について	明治時代以来、小説文化は連続と続いている。なぜ続いているのかを考えてみよう。					
第12回	(本県) 地方紙の特徴	本県地方紙は、全県的に販売されている東奥日報、津軽を中心に販売されている陸奥新報、八戸・その周辺・岩手北部を中心に販売されているテューリ一東北、黒石を中心に販売されている津軽新報などがあります。		第27回	健康食品とコマーシャル	健康食品は本当に体にとって良いことばかりなのか。					
第13回	インターネットによる情報収集	インターネットによる情報収集、メールによる情報交換は自由に行えます。しかし、同時に嫌な結果をもたらします。		第28回	ハウ・ツー本について	ハウ・ツー（マニュアル）本（情報）は、情報社会にとって不可欠になっています。ただ、ハウ・ツーでは、対処できない問題が世の中にはたくさんあります。					
第14回	大手月刊誌の特徴	月刊誌にも保守的傾向の強いものと革新性指向の強いものがあります。いずれにもプラス・マイナスがあります。		第29回	スマホとメールについて	便利になった道具は自らや他人の情報を簡単に公開してしまう。この問題を感じてみよう。					
第15回	大手週刊誌とスポーツ新聞の特徴	大手週刊誌の一部には保守的傾向が強くとも革新性にも挑戦するものがあります。スポーツ紙は、販売の為にユニークな見出しを作る傾向があります。		第30回	情報社会と人権について	情報社会の進展に人権に関わる法律の整備が遅れている。					
評価方法及び評価基準	・本年度の最後に仕上げた小論文のまとめ（100%）によって成績を評価。まとめは文章の構成と論理性を中心に評価。日常的に研究テーマに関連する記事を新聞やネットニュースで読み続けてください。										
課題等	自分はいったい何を調べて発表したいのかを1年間探求し続ける。										
事前事後学修	できれば新聞が良いのですが、ネットニュースなど何でも良いので活字を読み、要点を書き起こすことです。これを続けながら、自分が何が好きで何を調べたいのかを探求して下さい。										
教材教科書参考書	・教科書は、自分で本屋さんやネット等で調べて買ってください。中古本でも構いません。										
留意点	・上記授業内容は、基礎演習の中で、わずかな時間があったときに教員が学生に説明を心掛けるものです。学生からの要望がなければ、私からの説明はないかもしれません。よって、演習の中心は、小論文・レジュメの作成により、学生が自分の好きなテーマでまとめたものを発表し、それについて全員で質疑応答を行うものです。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10313		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-01.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 本演習では、社会学あるいはその近接分野の文献(社会問題、社会意識、コミュニケーション、ネットワーク等の分野)を読み、その内容についての議論を行う。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、カリキュラムポリシーの3に関連する										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読む力をつける 論理的な思考力を高める。 さまざまな文献を読むことで、社会的な視野を広げる。 										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考
第1回	ガイダンス	演習の進め方について				第16回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第2回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第17回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第3回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第18回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第4回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第19回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第5回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第20回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第6回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第21回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第7回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第22回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第8回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第23回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第9回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第24回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第10回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第25回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第11回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第26回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第12回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第27回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第13回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第28回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第14回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第29回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第15回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第30回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、報告を総合的に評価します										
課題等	課題の検討は授業時間内に行います										
事前事後 学修	使用するテキストを読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。										
教材 教科書 参考書	講読する文献は、事前の合同ゼミ説明会の際に提示します。										
留意点											

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10314		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-01.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	小川幸裕				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 本演習は、課題発見力やディスカッション能力といわれる専攻を問わない能力のみならず、専攻分野に対する意欲、興味をさらに深める動機づけの演習を行う。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 発表レジュメを作成できる。 論理的に思考できる。 情報を収集し分析できる。 自分の意見を分かりやすく伝えられる。 意見の違いや立場の違いを理解できる。 										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考		
第1回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え			第16回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第2回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第17回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第3回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第18回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第4回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第19回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第5回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第20回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第6回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第21回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第7回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第22回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第8回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第23回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第9回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第24回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第10回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第25回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第11回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第26回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第12回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第27回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第13回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第28回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第14回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第29回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
第15回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン	第30回	文献購読、報告および議論	1) レジュメの報告 2) 全体討論		ディス カッショ ン		
評価 方法 及び 評価 基準	レジュメ作成50%、報告50% レジュメの作成は、先行研究や関連分野の文献の収集および整理、構成と文章力、その内容の論理性などをルーブリックを用いて評価する。 報告は、発言頻度やその内容を評価する。										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジュメについてコメントを返します										
事前事後 学修	演習時に次回予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。										
教材 教科書 参考書	テーマの設定後に決定する。										
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。 自分自身のテーマを見つけ、それを文章および文字で表現するという作業に丁寧に取り組むことを期待する。 ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10315		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-01.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	高橋 和幸				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 学生による発表やディスカッションを中心とした主体的な活動を通して、学びと生活上の様々な問題への興味・関心を深め、専攻分野の学修への意欲と基礎的学修能力を高めるゼミ形式での授業を行う。具体的には、①1週間以内の新聞の中から興味・関心のある記事を選ぶ。②事例検討のために、記事をもとにピネットを作成する。③自身のとらえた問題と課題、具体的対策など、ディスカッションのための資料を作成する。④作成したピネットを紹介し、⑤の資料をもとにディスカッションする。⑤ディスカッションのまとめをする。という活動を繰り返すことで、課題発見力、文章力、ディスカッション能力などの向上を目指す。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2と3に関連し、カリキュラムポリシーの1と4に関連する。										
到達 目標	1 暮らしの中にある様々な問題に関心を寄せ、その解決のための課題と対策をまとめることができる。 2 ピネットの作成やディスカッションを通して、課題発見力や文章力、ディスカッション能力、発想力を高めることができる。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考		
第1回	オリエンテーション	・演習の進め方の説明 ・グループワークの心構え		グループ ワーク	第16回	発表・討議(6)	・ピネットの発表と問題・課題の整理と 対策の討議		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第2回	文献調査の手法の復 習	・文献調査の様々な手法、入手方法に関 する復習		グループ ワーク	第17回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で 見つけ補足する資料作成も行う		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第3回	資料収集の手法の復 習	・新聞、白書、論文、調査報告などの資料 の種類について再確認		グループ ワーク	第18回	発表・討議(7)	・ピネットの発表と問題・課題の整理と 対策の討議		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第4回	インターネット検索の功 罪	・関係行政庁のホームページと論文検索 サイトの利用の仕方を再確認		Web利用、情報 リテラシー等 含む	第19回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で 見つけ補足する資料作成も行う		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第5回	引用ルールの確認	・文献を引用する際のルールを再確認す る。Webを活用し討議資料を作成する。		Web利用、情報 リテラシー等 含む	第20回	発表・討議(8)	・ピネットの発表と問題・課題の整理と 対策の討議		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第6回	発表・討議(1) (教員主導で、演習 の進め方の体験)	・発表担当者の作成したピネットの 発表と問題・課題の整理と対策を 討議する		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第21回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で 見つけ補足する資料作成も行う		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第7回	発表・討議(2)	・前時に解決できなかった、あるいは 残された課題について、各自の学び から見出した答えを発表・討議する		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第22回	発表・討議(9)	・ピネットの発表と問題・課題の整理と 対策の討議		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第8回		・ピネットの発表と問題・課題の整 理と対策の討議		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第23回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で 見つけ補足する資料作成も行う		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第9回	発表・討議(3)	・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で見 つけ補足する資料作成も行う		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第24回	年度末報告書の作成 の仕方の説明	・1年間レポートして学んだこと、得ら れた知見をまとめる報告書の書き方 についてレクチャー		グループ ワーク		
第10回		・ピネットの発表と問題・課題の整 理と対策の討議		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第25回	年度末報告書のテー マ設定	・各自どんなテーマにするか検討、追 跡調査の仕方を検討		グループ ワーク		
第11回	発表・討議(4)	・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で見 つけ補足する資料作成も行う		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第26回	各自どこまで執筆して いるか中間報告	・一週間でどこまで執筆できたか報告 しあう。		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第12回		・ピネットの発表と問題・課題の整 理と対策の討議		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第27回	年度末報告書の発表 と討議①	・発表当番の学生が発表し、討議す る。		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第13回	発表・討議(5)	・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で見 つけ補足する資料作成も行う		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第28回	年度末報告書の発表 と討議②	・発表当番の学生が発表し、討議す る。		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第14回		・ピネットの発表と問題・課題の整 理と対策の討議		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第29回	年度末報告書の発表 と討議③	・発表当番の学生が発表し、討議す る。		プレゼンテ ーション・ディ スカッション		
第15回	・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で見 つけ補足する資料作成も行う		プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第30回	まとめ	・演習を通して学んだこと、今後の課 題等についてまとめを行う		プレゼンテ ーション・ディ スカッション			
評価 方法 及び 評価 基準	○演習への参加状況 35% ピネットの作成・発表 30% 年度末報告書 30%で評価する。 ・演習への参加状況は、主体的な授業参加の姿勢に加えて、企画力、課題発見力などを中心に評価する。欠席は1回につき3点を減ずる。 ・ピネットの作成・発表・年度末報告書は、課題設定の着眼点、文章構成と文章力、論理性などから評価する。										
課題等	発表担当回に使用(提出)したレジュメ・ピネット等は添削した後、次時間に返却する。記載内容が不十分な場合は再提出とする。										
事前事後 学修	(予習)：「なぜ」「どうして」という問題意識を持って新聞を読むとともに、自分なりの問題解決のための課題設定と対策を考えること。1日あたり30分以上とする。(復習)：授業で出された課題や疑問点について、積極的に解決に努めること。図書館での文献収集あるいはインターネット検索等により調べる。復習は90分以上行うこと。										
教材 教科書 参考書	教科書：使用しない。参考書：いとう総研資格取得支援センター編(2022)『社会福祉士国試ナビ2023』中央法規 ISBN-978-4-8058-8480-5で購入は任意、毎年7月に最新版がでるため最新版を入手することが望ましい。適宜資料を配布する。										
留意点	○原則2回の授業(発表・討議)を1セットとして実施する。 ○資料作成・発表の担当となったときには、責任をもって資料作成を行い、ディスカッションを進行すること。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10316		単位数	4単位	対象学年	2年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-01.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	柘植秀通					授業形態	演習	単独
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕社会福祉に関わる様々な施設・機関について学ぶ。特に訪問の機会を多く取り、通常では訪問する機会のない施設・機関などへも訪問を行う。また、訪問を行うためのアポイントとりなども、学生が行うように指導し、訪問の基本を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1及び3と関連し、カリキュラムポリシーの1と関連している。</p>										
到達目標	いわゆる福祉の専門分野のみでなく、その周辺の様々な施設・機関についても理解を持ち、大きな目で福祉を見ることができるようになる。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考				
第1回	オリエンテーション			第16回	オリエンテーション						
第2回	福祉の様々な機関について学ぶ1	福祉の施設・機関の概要について、講師の発表により学ぶ	グループワーク	第17回	後期訪問の機関について学ぶ1	後期に行きたい施設・機関について、発表等により学ぶ	グループワーク				
第3回	福祉の様々な機関について学ぶ2	福祉の施設・機関の概要について、学生が調査して発表し学ぶ	グループワーク	第18回	後期訪問の機関について学ぶ2	後期に行きたい施設・機関について、発表等により学ぶ	グループワーク				
第4回	勉強してみたい施設・機関について選出・学習1	訪問してみたい施設・機関について話し合い、行ってみたい施設・機関について考える	グループワーク	第19回	勉強してみたい施設・機関について選出・学習1	訪問してみたい施設・機関について話し合い、行ってみたい施設・機関について考える	グループワーク				
第5回	勉強してみたい施設・機関について選出・学習2	訪問してみたい施設・機関について話し合い、行ってみたい施設・機関について考え決定する。	グループワーク	第20回	勉強してみたい施設・機関について選出・学習2	訪問してみたい施設・機関について話し合い、行ってみたい施設・機関について考え決定する。	グループワーク				
第6回	訪問準備1	訪問のための準備（アポ取り）等の方法を決定、実践。	グループワーク	第21回	訪問準備1	訪問のための準備（アポ取り）等の方法を決定、実践。	グループワーク				
第7回	訪問準備2	訪問のための準備（アポ取り）等の方法を決定、実践。	グループワーク	第22回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問					
第8回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問		第23回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問					
第9回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問		第24回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問					
第10回	訪問1	土曜日等を利用し、実際に訪問		第25回	訪問振り返り・準備	訪問の振り返りを行う。	グループワーク				
第11回	訪問振り返り・準備	訪問の振り返り、次回の準備を行う	グループワーク	第26回	訪問準備	訪問のための準備（アポ取り）等の方法を決定、実践。	グループワーク				
第12回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問		第27回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問					
第13回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問		第28回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問					
第14回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問		第29回	訪問2	土曜日等を利用し、実際に訪問					
第15回	訪問振り返り	訪問の振り返りを行う。	グループワーク	第30回	全体振り返り	全体の振り返りを行う。	グループワーク				
評価方法及び評価基準	訪問先の決定、その準備に対して、意欲的に取り組み、また学ぼうとしているかを、観察評価する。										
課題等	随時、課題を提供し、それを次回には提出する。										
事前事後学修	訪問先について、報告書を作成し、特に掲示できるものを作成する。										
教材教科書参考書	特別に教科書を用いないが、訪問選択において、様々な書籍に接するようにする。										
留意点	何よりも、積極的に参加することが第一となる。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10320	単位数	4単位 60時間	対象学年	2年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	W-BESE1-01.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業形態	演習	単独
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 「マンガで学ぶ」をテーマとし、作品における具体的な場面に即して、そこで描かれる事物や心情をつかみ、単なる暗記物として社会保障や社会福祉の制度等を覚えるのではなく、人間が人間のために作った血の通ったものとして理解を深めることを目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及び3と関連し、カリキュラムポリシーの1と関連している。</p>									
到達目標	<p>「事実」に向き合ったとき、何が必要不可欠なことであり、何が必ずしもそうではないかを見極める力を養う。その上で、解決に至るプロセスを見出し、利用しうる社会資格等をフル活用していけるような構想力を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ガイダンス①	何を・どのように学んでいくか		第16回	第三の事例を読む①	概要をつかむ				
第2回	ガイダンス②	レファレンスの方法		第17回	第三の事例を読む②	論点の抽出				
第3回	第一の事例を読む①	概要をつかむ		第18回	第三の事例を読む③	論点に関する学習				
第4回	第一の事例を読む②	論点の抽出		第19回	第三の事例を読む④	事実の再構成				
第5回	第一の事例を読む③	論点に関する学習		第20回	第三の事例を読む⑤	総括				
第6回	第一の事例を読む④	事実の再構成		第21回	第四の事例を読む①	概要をつかむ				
第7回	第一の事例を読む⑤	総括		第22回	第四の事例を読む②	論点の抽出				
第8回	第二の事例を読む①	概要をつかむ		第23回	第四の事例を読む③	論点に関する学習				
第9回	第二の事例を読む②	論点の抽出		第24回	第四の事例を読む④	事実の再構成				
第10回	第二の事例を読む③	論点に関する学習		第25回	第四の事例を読む⑤	総括				
第11回	第二の事例を読む④	事実の再構成		第26回	第五の事例を読む①	概要をつかむ				
第12回	第二の事例を読む⑤	総括		第27回	第五の事例を読む②	論点の抽出				
第13回	補足①	触れられなかった論点の学習		第28回	第五の事例を読む③	論点に関する学習				
第14回	補足②	触れられなかった論点の学習		第29回	第五の事例を読む④	事実の再構成				
第15回	前期の振り返り	残された課題と展望		第30回	第五の事例を読む⑤	総括				
評価方法及び評価基準	平常評価（準備・発表・討論への参加等）									
課題等	特になし									
事前事後学修	事前事後を問わず、参考となる文献等のレファレンスに努めること。									
教材教科書参考書	さいきまこ『助け合いたい』（秋田書店）ISBN978-4-253-10642-9									
留意点	社会福祉実践コース・人間科学コースのいずれを選択している学生でも履修できる。随時、ディスカッションを行う。									

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10311		単位数	4単位	対象	2年	開講	通年
			科目ナンバリング	W-BESE1-01.H		時間	60時間	学年			
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	西東 克介				授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 基礎演習Ⅱでは、本演習を選択した学生が各自の読みたい著作を西東と相談の上、決定する。何を讀んでいいかわからない学生の相談にはのるが、自分の意思で決定すること。読みたい本が決まれば、その本を讀み、理解した部分のレジュメを作成し、発表していく。著作を最後まで読み切り、発表する。その著作を早めに読み終え、かつ発表も終了した場合は、新たな著作を選び、同様に読み発表していく。そのスピードは、学生に任せる。重要なことは、読解力や文章力が少しずつ付いていると、学生自らが認識できることです。もう一つは、「基礎演習Ⅱ」全体で1年間やっていくことを決めることです。学生全員が参加し、2月初めまで継続して行う何かを学生自身で決めてください。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」と活発なボランティア活動には、文章力も大切な基礎力となります。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「意見と事実」の違いを前提に、小論文・感想文・レポート等の違いについての理解を学生にしてもらいます。 ・えせ（似非）情報を学生に考えてもらいます。 ・レジュメの作成能力を身に着けます。 ・学生がレジュメを使って発表ができるようにします。 ・学生が少人数で質疑応答と話し合いができるようにします。 										
授業計画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考				
第1回	本演習の概要説明	自分で発表テーマを決めることの意義		第16回	マンガとアニメについて	我が国では非常に多くのマンガとアニメが生産され、外国人の人々にも人気があります。					
第2回	講義とは何か	大学の講義とその意義		第17回	映画について	映画は斜陽産業と言われて久しいのですが、それでもかなり作られています。					
第3回	演習とは何か	いわゆるゼミと授業（講義）での演習と実習の違い		第18回	ドキュメンタリーについて	素晴らしいドキュメンタリーを数多く見てください。					
第4回	実習とは何か	実習における一般に重要な事項		第19回	テレビコマーシャルについて	テレビコマーシャルとインターネットによるコマーシャルについて考えてみましょう。					
第5回	作文とは何か	小学生の頃から書いてきた作文とは		第20回	テレビニュースについて	テレビニュースについて考えてみましょう。					
第6回	感想文とは何か	感想文とはある作品（対象）について自分の意見が述べられていることが必要です。		第21回	民間テレビ局について	民間テレビ局が国民に与えてきた影響について考えてみましょう。					
第7回	エッセイとは何か	エッセイとは、論理的にはなく、自らが感じたままに書く文章です。		第22回	民間ラジオについて	それでもラジオは生き残っている。					
第8回	レポートとは何か	レポートは「報告」と訳されます。基本的に調査した情報をまとめることです。最後にまとめた人物が自分の意見を述べるか否かは教員次第です。		第23回	NHKについて	NHKの受信料と政治的中立性について考えてみましょう。					
第9回	小論文とは何か	テーマについて論理的に展開していく、結論を述べる短い文章。		第24回	テレビと番組制作会社について	テレビ局は多くの番組を外部の制作会社に委託している。					
第10回	図書館について	自らの思想を自由に形成する場所であり、利用者の情報を保護します。		第25回	芸能人とプロダクション	スマップの解散問題が国民的関心となった。芸能人とプロダクションについて考えてみましょう。					
第11回	全国紙の特徴	読売・日経・産経は保守的指向が強く、朝日・毎日革新的指向が強い。		第26回	小説について	明治時代以来、小説文化は連続と続いている。なぜ続いているのかを考えてみよう。					
第12回	(本県) 地方紙の特徴	本県地方紙は、全県的に販売されている東奥日報、津軽を中心に販売されている陸奥新報、八戸・その周辺・岩手北部を中心に販売されているテューリー東北、黒石を中心に販売されている津軽新報などがあります。		第27回	健康食品とコマーシャル	健康食品は本当に体にとって良いことばかりなのか。					
第13回	インターネットによる情報収集	インターネットによる情報収集、メールによる情報交換は自由に行えます。しかし、同時に嫌な結果をもたらします。		第28回	ハウ・ツー本について	ハウ・ツー（マニュアル）本（情報）は、情報社会にとって不可欠になっています。ただ、ハウ・ツーでは、対処できない問題が世の中にはたくさんあります。					
第14回	大手月刊誌の特徴	月刊誌にも保守的傾向の強いものと革新的指向の強いものがあります。いずれにもプラス・マイナスがあります。		第29回	スマホとメールについて	便利になった道具は自らや他人の情報を簡単に公開してしまう。この問題を感じてみよう。					
第15回	大手週刊誌とスポーツ新聞の特徴	大手週刊誌の一部には保守的傾向が強くとも革新性にも挑戦するものがあります。スポーツ紙は、販売の為にユニークな見出しを作る傾向があります。		第30回	情報社会と人権について	情報社会の進展に人権に関わる法律の整備が遅れている。					
評価方法及び評価基準	本演習への取り組み態度ができていれば、学生が発表したレジュメを年度の最後まとめ（100%）によって成績を評価。まとめの文章の構成と論理を中心に評価。										
課題等	学生は、フェイクニュースやえせ（似非）情報と、事実と意見の違いの理解を目指す。										
事前事後学修	日常的に研究するテーマに関連する著書・論文や、新聞記事・ネットニュース等を読んでおくこと。										
教材教科書参考書	著作は、図書館等で借りるか、自分で本屋さんやネット等で買ってください。中古本でも構いません。丁寧に読む本ですから購入を勧めます。										
留意点	上記授業内容は、基礎演習Ⅱの中で、わずかな時間があったときに教員が学生に説明を心掛けるものです。学生からの要望がなければ、私からの説明はないかもしれません。演習Ⅱの中心は、1冊（ずつ）の著作を丁寧に読みまとめる力を伸ばすことです。										

科目名	社会科学研究方法			科目コード	W10001	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
	区分	基礎教育科目	必修	担当者名	W-BFBE1-01.H	時間	30時間	学年			
				西東 克介・藤岡 真之					授業形態	講義	オムニバス
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 本講義は、社会を分析対象とする社会科学が、何を対象とし、どのような特徴を持つかということ学ぶ。また、社会科学における具体的な研究の方法について学ぶ。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 CP2、3、DP3に関連する。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学の限界と可能性を実践との関係において理解する。(西東) ・身近な事柄に社会科学を学ぶ多種多様な材料があることを理解する。(西東) ・社会科学的研究方法の類型を理解する。(藤岡) ・社会科学的研究の進め方を理解する。(藤岡) 										
回	主 題			授 業 計 画					授業内容・授業時間外の学修		備考
第1回	西東・藤岡による講義概要・試験等についての説明			講義の受け方、学習方法、成績の付け方、出欠の取り方などを説明する。							
第2回	大学での学習以外の能力の磨き方と社会科学の関係			大学での学習能力を向上させるには、日常生活における学習以外の友人関係、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイト等で学べる能力向上への挑戦が重要である。							
第3回	社会科学とは			社会科学に関する基本的知識と可能性を考察する。							
第4回	社会科学的発想 (1)			53年前の吉田拓郎のデビュー曲「イメージの詩(うた)」の歌詞から、多種多様な研究や文化的発想を可能にさせる部分が存在する。							
第5回	社会科学的発想 (2)			「うわさ」についての社会科学的分析の理解と限界を吉田拓郎の曲「ひらひら」から考える。							
第6回	社会科学と公共政策論の違いと共通点			社会科学と、すっかり定着した感のある公共政策論(政策科学)の違いと共通点、それらの可能性と限界について考察する。							
第7回	学習と学習以外で磨いた能力と社会福祉実践における共通点			社会福祉の現場での実践は、学習能力に加えて、学習以外で身につけた能力が重要となる。							
第8回	社会科学と価値の関係			社会科学は、価値を完全に排除することはできない。これが社会科学の可能性であり、限界でもある。このことについて考察する。							
第9回	社会科学的研究方法の類型			社会科学の特徴を踏まえて、研究方法を理解する							
第10回	意味の解釈(1)一少年非行に関する問題			見田宗介「まなごしの地獄」を題材に意味の問題を考える							
第11回	意味の解釈(2)ーラベリング理論、構築主義			ラベリング理論、構築主義の考え方を学ぶ							
第12回	統計帰納法(1)ーデュルケム『自殺論』			デュルケム『自殺論』を題材に統計帰納法を学ぶ							
第13回	統計帰納法(2)ー現代の社会意識			現代の社会意識の変化を統計的に理解する							
第14回	研究の具体的な進め方(1)			これまで学んだ研究方法の特徴を再確認する							
第15回	研究の具体的な進め方(2)			実際に研究を企画し、進める仕方を理解する							
評価方法及び評価基準	(西東) レポートにより評価します。課題内容について、自らの思考が表現されているかどうかを評価基準とします。 (藤岡) レポートにより評価します。課題内容について、自らの思考が表現されているかどうかを評価基準とします。										
課題等											
事前事後学修	授業で配布されるプリント、授業中に指示される文献等を参照して、理解を深めてください。 事後学習時間の目安：週当たり3時間程度。										
教材教科書参考書	(藤岡) レジュメを授業中に配布します。参考書は、適宜提示します。										
留意点											

科目名	医学一般		科目コード	W21023	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-01	時 間	30時間				
区分	共通基盤科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 選択必修 必修	担当者名	相馬 信 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] 社会福祉士として必要な人体の特徴と各種疾患、特に高齢者に多い疾患を理解する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	人体の仕組みを学ぶ。社会的弱者たる高齢者、障害者に寄り添う姿勢を学び、実につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	人の成長、老化			ライフスタイルの心身の変化をまなぶ。					講義	
第2回	身体の構造と心身機能			人体各部の名称、心臓、腎臓をまなぶ。					講義	
第3回	身体の構造と心身機能			呼吸、消化器、神経を学ぶ。					講義	
第4回	疾病の概要			生活習慣病、悪性疾患の予防を学ぶ。					講義	
第5回	疾病の概要			高血圧症とそれに伴う心、脳、血管疾患を学ぶ。					講義	
第6回	疾病の概要			消化器、胃、泌尿器疾患を学ぶ。					講義	
第7回	疾病の概要			糖尿病とその合併症を学ぶ。					講義	
第8回	疾病の概要			高齢者に多い胃疾患、神経疾患を学ぶ。					講義	
第9回	障害の概要			肢体不自由、視聴覚障害を学ぶ。					講義	
第10回	障害の概要			知的障害					講義	
第11回	障害の概要			精神障害、認知症を学ぶ。					講義	
第12回	国際生活機能分類（ICF）の概要			ICFの概要と事例研究					講義	
第13回	リハビリテーション			リハビリテーションの進歩を学ぶ。					講義	
第14回	公衆衛生			公衆衛生の概要、健康づくり対策					講義	
第15回	まとめとテスト			既習内容の振り返り					講義	
評価 方法 及び 評価 基準	試験60点以上で合格とする。									
課題等	課題を指示し、レポート(800字以内)を提出し、質疑応答する。その後提出されたレポートは返却する。									
事前 事後 学修	授業中、参考文献を付し、レポート提出する。試験にも出題する。週3時間を目安に取り組むこと。									
教材 教科書 参考書	『新・社会福祉士養成講座Ⅰ 人体の構造と機能及び疾患』中央出版 ISBN:978-4-8058-5100-5									
留意点	授業に参加すること。授業内容は教科書以外にもあります。									

科目名	障害者の生涯学習			科目コード	W21026	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
				科目名	W-BFCB1-02	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名						授業形態	講義	単独
授業の概要等	[授業の主旨]										
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]										
到達目標											
授 業 計 画											
回	主 題	授 業 内 容							備 考		
第1回	別 紙 掲 載										
第2回											
第3回											
第4回											
第5回											
第6回											
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
評価方法及び評価基準											
課題等											
事前事後学修											
教材教科書参考書											
留意点											

科目名	日本国憲法 A		科目コード	W21007	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-03	時間	30時間				
区分	共通基盤科目 教職科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 日本国憲法が保障する基本的人権を学ぶ。まず、人権に関する歴史や基礎理論を学び、そのうえで、包括的基本権及び自由権、社会権等の人権について概観する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連する。									
到達 目標	日本国憲法の人権諸条項について、それらの規定内容の理解を始め、それらを巡る現代的諸問題等をより深く理解する事を目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	人権総論①			基本的人権の概念						
第2回	人権総論②			基本的人権思想の歴史的展開①						
第3回	人権総論③			基本的人権思想の歴史的展開②						
第4回	人権総論④			基本的人権の享有主体						
第5回	人権総論⑤			基本的人権の私人間効力						
第6回	人権総論⑥			特別の法律関係における基本的人権						
第7回	人権総論⑦			基本的人権の限界と制約						
第8回	包括的基本権①			個人の尊重と幸福追求権						
第9回	包括的基本権②			幸福追求権の諸相						
第10回	包括的基本権③			法の下での平等						
第11回	包括的基本権④			家族生活と平等						
第12回	包括的基本権⑤			雇用関係と平等						
第13回	自由権①			思想及び両親の自由						
第14回	自由権②			信教の自由と政教分離						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価 方法 及び 評価 基準	試験（前期試験）のみ									
課題等	特になし									
事前 事後 学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	特に指定しない									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるよう、準備をしておくこと。随時、グループワークやディスカッションを行う。									

科目名	日本国憲法B		科目コード	W21008	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-04	時間	30時間				
区分	共通基盤科目 教職科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 日本国憲法Aに引き続いて、日本国憲法が保障する基本的人権を学ぶ。日本国憲法Aで学んだ基礎理論を前提にしつつ、各人権条項の内容を学ぶのに加えて、必要に応じて、裁判例などについても理解を深める。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連する。									
到達 目標	各人権条項の規程内容の理解に加えて、現代的諸問題への対応についても、より広くより深い理解を形成する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	自由権③			学問の自由と大学の自由						
第2回	自由権④			表現の自由①						
第3回	自由権⑤			表現の自由②						
第4回	自由権⑥			表現の自由③						
第5回	自由権⑦			経済的自由権の歴史的展開						
第6回	自由権⑧			財産権の保障						
第7回	自由権⑨			職業選択の自由と営業の自由						
第8回	自由権⑩			居住・移転・国籍離脱の自由						
第9回	社会権①			自由権と社会権						
第10回	社会権②			生存権①						
第11回	社会権③			生存権②						
第12回	社会権④			教育を受ける権利						
第13回	社会権⑤			労働基本権①						
第14回	社会権⑥			労働基本権②						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価 方法 及び 評価 基準	試験（後期試験）のみ									
課題等	特になし									
事前事 後学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	特に指定しない									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるよう、準備しておくこと									

科目名	知的障害者の心理 I		科目コード	W71002	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-KYT02-02.	時間	30時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 知的障害の概念及び知的障害児・者の心理に関する基本的事項を理解し、指導・支援を検討するための知識・技能を修得することを目指す。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達 目標	心身の発達、心理機能の基本的理解を行い、知的障害のアセスメント方法やその課題等についても理解する。知的障害者一般についての特性を理解したうえで、個人ごとの特性に応じた具体的な指導のヒントを検討できるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	知的障害の捉え方			障害概念と知的障害概念の変遷						
第2回	知的障害と学校			知的障害を対象とした学校教育、インクルーシブ教育システム						
第3回	知的障害の理解方法			実態把握の進め方、実態把握から指導へ						
第4回	心理アセスメント			心理アセスメントの目的と方法、検査者の資格						
第5回	多面的な理解			心理検査の種類、情報共有の在り方						
第6回	知的機能のアセスメント			知能検査の種類と特徴、ウェクスラー式、ビネー式等						
第7回	知的障害の感覚・知覚			感覚・知覚機能の基礎、感覚、知覚、認知、視知覚						
第8回	知的障害の視知覚機能			視知覚機能の特徴と指導上の配慮						
第9回	知的障害の運動機能と運動発達			運動機能の発達と運動・スポーツ、不器用さ						
第10回	運動機能の課題と指導の工夫			運動機能改善における指導の工夫						
第11回	生涯教育としての運動			日常生活場面、スポーツにおける運動機会						
第12回	知的障害の学習			オペラント条件付け、見本合わせ法						
第13回	学習指導の工夫			課題分析、ICTの活用						
第14回	知的障害の指導における課題			レポート作成及び発表				レポート提出		
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。									
事前 事後 学修	知的障害の特徴について理解を深めるためにも、一般的な発達について学ぶこと。									
教材 教科書 参考書	参考書 小池敏英・北島善夫 著 『知的障害の心理学—発達支援からの理解—』 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5									
留意点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。									

科目名	病弱者の心理・生理・病理		科目コード	W71005	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-KYT02-05.	時間	30時間	学年			
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>病弱とは、慢性疾患等のために継続して医療や生活規制を必要とする状態である。原因となる病気の種類も多様である。主な病気の概要と、生活規制や行動制限のある場合の対応、そして心理的側面への配慮などについて概説する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	病弱の原因となる主な病気の概要や病弱児の心理的社会的な困難を理解し、病弱児の病気対処行動や学習上の課題等を克服・改善のための指導の在り方を考える。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション、病弱の概念		授業の内容と進め方の説明、病弱の概念							
第2回	病弱教育の捉え方		病弱教育に関する体験やイメージ							
第3回	病弱教育の変遷・教育課程		病弱教育の歴史、教育の内容、教育の方法							
第4回	病弱児の心理		病弱児の心理理解の視点							
第5回	主な病気の概要と教育支援		小児がん：白血病							
第6回	主な病気の概要と教育支援		アレルギー疾患：ぜん息							
第7回	主な病気の概要と教育支援		糖尿病							
第8回	主な病気の概要と教育支援		てんかん							
第9回	主な病気の概要と教育支援		精神性疾患							
第10回	病弱教育における情報化		病弱教育における情報化の意義と課題							
第11回	キャリア教育		キャリア教育の背景、病弱児の社会的自立とは							
第12回	病弱児と医療的ケア		重複障害児の実態把握、医療的ケア、自立活動の内容							
第13回	教育と医療・福祉等との連携		病弱児に関係する諸制度、多職種連携の在り方							
第14回	病弱児教育上の課題		課題の把握と今後の学習テーマ						レポート提出 発表	
第15回	試験とまとめ		試験とまとめ							
評価方法及び評価基準	<p>定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%）</p> <p>毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。</p>									
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。									
事前事後学修	準備学習時間の目安：1日当たり30分以上。課題発表担当の場合は1回につき準備時間2時間以上。									
教材教科書参考書	参考書 日本育療学会編著 標準「病弱児の教育」テキスト ジアース教育新社 2019 ISBN978-4-86371-493-9									
留意点	病気・障害の有無に関わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にしてください。									

科目名	社会政策論		科目コード	W21013	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-SWRW2-08.	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉学支援科目	選択	担当者名	松本 悦子			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会政策は、資本主義経済の発展に伴い、様々な社会問題が顕在化したことで成立してきました。本講義では社会政策上の課題(労働・雇用、子育て・介護など)について、今日の具体的な社会問題を取り上げ、多様な視座から社会政策について体系的に学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連します。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会政策に関する基礎知識を学び、日本社会の現状について理解を深める 2. 労働政策や雇用政策、また、医療・介護・年金制度などの概要について説明できるようになる 3. 現代社会の課題について、自ら問いをたて、具体的な解決方法を考える力を身につける 									
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション		本講義を受けるにあたって							
第2回	社会政策と日本社会の現状		日本社会の現状をふまえながら社会政策とは何かを理解する							
第3回	社会政策の考え方		社会政策がどのような歴史的展開をとげてきたのかを学ぶ							
第4回	労働時間と生活		現代社会において、労働時間の何が問題なのかを具体的に知る						グループワーク	
第5回	働き方と社会政策		働き方について国際社会の取り組みから考える							
第6回	賃金と社会政策		賃金と社会政策の深い関係について学ぶ						反転学習	
第7回	雇用・失業と社会政策		正規・非正規雇用の問題について具体的に考える							
第8回	労働と生活問題		労働と生活問題の結びつきについて理解を深める						グループディスカッション	
第9回	生活と保障		公的年金制度など生活を支える保障について学ぶ							
第10回	男女平等政策と現代社会		男女の働き方と社会の取り組みについて考える						反転学習 グループワーク	
第11回	労使関係の展開と労働組合		労働組合とは何か、労使関係とはどのようなものかを学ぶ							
第12回	現代の貧困と社会政策		貧困問題と労働を結びつけ、様々な角度から理解を深める							
第13回	高齢社会と社会政策		高齢社会で必要となってくる社会政策について学ぶ							
第14回	グローバル化と社会政策		国境を超える人の移動と労働について具体的に考える						グループワーク	
第15回	現代社会と社会政策		「労働と生活」をめぐる課題およびその解決方法について考える							
評価方法及び評価基準	<p>講義の終わりにコメントカードを提出してもらいます(30点,30%)。加えて学期末に試験を行います(70点,70%)。評価は上記の総合評価(合計100点,100%)で行います。</p> <p>試験は、到達目標(1)(2)に対応して、総合的な問題を出题します。</p>									
課題等	講義内で提出してもらったコメントについては次時間にフィードバックします。									
事前事後学修	<p>日頃からネット以外の情報媒体(新聞、テレビなど)にも気を配り、普段から「働き方」に関するニュースや労働問題に関心を持つように心がけてください。社会の動きに敏感になると同時に、さまざまな視座を身につけるきっかけになり、学習効果を高められると思います。気になったニュースや社会的現象について授業内で発表してもらいます。準備学習時間の目安:1日30分以上</p>									
教材教科書参考書	使用しません。必要に応じて資料を配付します。									
留意点	随時質問を行い回答してもらおう(回答する)、双方向的な講義形態で授業を進めます。Teamsを活用する場合があります。学生の主体的・積極的な発言や質問を期待します。私語や他の学生の迷惑になる行為等は認めませんので注意してください。なお、講義の順番は必要に応じて入れ替わることがあります。									

科目名	行政法 A		科目コード	W21015	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-SWRW2-10.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉学支援科目	選択	担当者名	堀内 健志			授業	形態	講義	単独
授業の概要	〔授業の主旨〕 行政法の基本特徴や意義・今日の課題などを諸学問との相違や関連に留意して、概括的に学びます。行政法総論です。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達目標	行政法を初めて学ぶ学生が、基礎知識をしっかりと理解できるようになることを目標とします。さらには、学生がこれらを用いて、行政法の体系的な構造を理解でき、重要な論点を考えることができるようになることを到達目標としています。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	ガイダンス		行政法とは、どのような法であり、それをどのように学ぶのかについて、学ぶ。毎回3時間程度の予習・復習を心がけること。						講義	
第2回	行政法の基礎理論、「行政法」の性格		憲法は変化していくが、行政法は存続する。が、戦後、大陸型に英米型の行政法が混在することになった。「法律による行政の原理」と「法の支配」論						講義	
第3回	「行政法」の構造		「行政法基礎理論」「内部行政法」「外部行政法」						講義	
第4回	「行政法」の基本的諸問題		公法と私法、特別権力関係論、自由裁量、行政法の公定力						講義	
第5回	「行政法」の基本的諸問題		瑕疵ある行政行為の取消と無効、委任立法の限界、行政秩序罰						講義	
第6回	「行政法」の基本的諸問題		行政執行、統治行為、抗告訴訟、訴えの利益						講義	
第7回	「行政法」の基本的諸問題		行政指導、集団訴訟と行政手続、官僚制と公務員の資質						講義	
第8回	「行政」概念		行政の控除説						講義	
第9回	「行政」概念		新しい行政概念構築の試みは成功していない。						講義	
第10回	「行政」概念		行政の任務の諸分野						講義	
第11回	「法律による行政の原理」とその現代国家的変容		O・マイヤーの伝統的「法律の支配」論						講義	
第12回	「法律による行政の原理」とその現代国家的変容		現代国家的変容と本質性理論の評価、及びわが国の現状						講義	
第13回	「公法と私法」		伝統学説と国家任務の増大・変質、今日の学説の状況						講義	
第14回	「行政法源」		行政法の成文法主義、不文法源の可否論議の吟味						講義	
第15回	まとめ		現代における行政法の日常性の再確認						講義	
評価方法及び評価基準	定期試験評価80パーセント、平常点評価20パーセントとして評価する。到達目標に対応して、基本概念や語句の理解を前提に、現実社会に対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。									
課題等	講義内容についての質問などは、常時歓迎します。									
事前事後学修	1講義につき、3時間程度の予習・復習がのぞまれます。									
教科書教科書参考書	教科書は使わないが、参考書として、堀内健志『公法2新版行政法』（信山社）ISBN4-434-06500-9、藤田宙靖『行政法入門第7版』（有斐閣）ISBN978-4-641-13195-8、及びポケット六法（有斐閣）ISBN978-4-641-00918-9									
留意点	講義では、学説、判例などについて、最新の内容で展開しますので、是非講義内容に注目し、ノートを十分に活用することが有効でしょう。									

科目名	行政法B		科目コード	W21016	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
			科目ナンバリング	W-SWRW2-11.	時間	30時間				
区分	社会福祉学支援科目	選択	担当者名	堀内 健志			授業形態	講義	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 行政法の基本特徴や意義・今日的課題などを諸学問との相違や関連に留意して、概括的に学びます。行政組織法、行政救済法・概観です。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達目標	学生が公務員試験や各種資格試験などに十分対応できるようになることを目標としています。また、学生が行政組織法、公務員法、行政仮定法、行政作用法などについて体系的に理解できるようになることを目指しています。改正行政不服審査法や改正行政事件訴訟法などにも対応しています。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	内部行政法			ガイダンス、毎回3時間程度の予習と復習をすることがのぞまれます。				講義		
第2回	「行政法」規範の分類			行政法を学ぶ上で、まずは、行憲法と組織法、および内部法と外部法の区別をすることが便利である。				講義		
第3回	「行政組織法」			国家・国家機関・国家公務員の概念的な区別を理解する。				講義		
第4回	「国の組織」			行政主体として、国家、地方公共団体、公共組合、公社・公団				講義		
第5回	「行政機関」			委員会、地方支分局、行政機関の概念、行政庁とその他の機関、権限の委任と				講義		
第6回	「地方自治・分権」			憲法上の地方自治と分権、平成の「国のかたち」の改革法の解説、機関としての町村総会・議会・長・委員会・委員、直接参政				講義		
第7回	「公務員法」			公務員の意義、権利・義務				講義		
第8回	外部行政法、個人的公権			国家に対して市民はどのようにして対抗するのか。国家・国民の法的関係。個人的公権の分類・体系、反射的利益、私人の公法行為				講義		
第9回	「行政過程法」			行政の全プロセスをダイナミックに捉える。行政処分を中心に事前と事後に分けて展開します。				講義		
第10回	「行政救済法・概観」「行政争訟」			事後救済としての処分を取り消すなどの不服申立と行政訴訟。改正行政不服審査法と改正行政事件訴訟法を解説します。				講義		
第11回	「国家補償」			損失補償と国家賠償の制度、及びこれらの狭間にあるワケチン禍、戦争責任などの諸問題をどのように救済するかを検討します。				講義		
第12回	「行政手続法」（情報公開法、個人情報保護法を含む）			事前手続としての行政手続法の検討、そして情報公開と個人情報保護の現状。				講義		
第13回	「行政作用法」「行政立法」			伝統的行政法学の中心であった行政作用法を概観します。				講義		
第14回	「行政行為」「行政指導」			「行政行為」「行政指導」などの概念・性格を学びます。				講義		
第15回	まとめ			行政法はまことに今日市民として不可欠、必須の法分野であることを確認します。				講義		
評価方法及び評価基準	定期試験評価80パーセント、平常点20パーセントとして評価します。到達目標に対して、基本概念や語句の理解を前提に、現実社会に対する洞察力を試す問題を出します。答案の構成や論理性を重点的に評価します。									
課題等	講義内容についての質問などは、常時歓迎します。									
事前事後学修	講義につき、3時間程度の予習・復習がのぞまれます。									
教材教科書参考書	教科書は使わないが参考書として、堀内健志『公法2新版行政法』（信山社）ISBN4-434-06500-9、藤田宙靖『行政法入門第7版』（有斐閣）ISBN978-4-641-13195-8、及びポケット六法（有斐閣）ISBN978-4-641-00918-9を指定します。									
留意点	講義では、学説、判例などについて、最新の内容で展開しますので、是非講義内容に注目し、ノートを充分に活用することが有効でしょう。									

科目名	権利擁護と成年後見		科目コード	W21030	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-04	時間	30時間				
区分	共通基盤科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 選択必修 必修	担当者名	吉村 顕真			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>講義を通じて次の5つの項目の理解を促す。</p> <p>①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の知識を理解する。</p> <p>②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。</p> <p>③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要なものに対する権利擁護活動の実際について理解する。</p> <p>④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。</p> <p>⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。</p>									
	<p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>DP1及びCP2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の知識を理解することができる。</p> <p>②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解することができる。</p> <p>③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要なものに対する権利擁護活動の実際について理解することができる。</p> <p>④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解することができる。</p> <p>⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	法の基礎(1)			①法と規範(法と規範との関係、法と道徳の関係)、②法の体系、種類、機能(成文法と不文法、公法と私法、実体法と手続法、法規範の特質と機能)について学ぶ。						
第2回	法の基礎(2)			①法の基礎知識、法の解釈(法律条文の構造、法解釈の基準と方法)、②裁判制度、判例を学ぶ意義(裁判の種類、判決の種類、判決とは)について学ぶ。						
第3回	ソーシャルワークと法の関り(1) 憲法			①憲法の概要、②基本的人権、③幸福追求権について学ぶ。						
第4回	ソーシャルワークと法の関り(2) 民法①			民法総論、契約について学ぶ。						
第5回	ソーシャルワークと法の関り(3) 民法②			不法行為、親族、遺産管理について学ぶ。						
第6回	ソーシャルワークと法の関り(4) 行政法①			行政組織、行政の行為形式、行政上の義務履行確保について学ぶ。						
第7回	ソーシャルワークと法の関り(5) 行政法②			行政訴訟制度、国家の責任、地方自治法について学ぶ。						
第8回	権利擁護の意義と支える仕組み(1)			①権利擁護の意義、②福祉サービスの適正な利用(運営適正化委員会、国民健康保険団体連合会)、③苦情解決の仕組み(事業者による苦情解決、自治体等による苦情解決)について学ぶ。						
第9回	権利擁護の意義と支える仕組み(2)			①虐待防止防止法の概要(高齢者虐待防止法、児童虐待防止法、障害者虐待防止法)、②差別禁止法の概要(障害者差別解消法)について学ぶ。						
第10回	権利擁護の意義と支える仕組み(3)			意思決定支援ガイドライン、障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン、人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン、認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインについて学ぶ。						
第11回	権利擁護活動で直面しうる法的諸問題			①インフォームドコンセント、②秘密・プライバシー・個人情報、③権利擁護活動と社会の安全について学ぶ。						
第12回	権利擁護に関わる組織、団体、専門職			家庭裁判所、法務局、市町村、社会福祉協議会、権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関、弁護士、司法書士について学ぶ。						
第13回	成年後見制度(1)			①成年後見制度の概要(法定後見、任意後見、専門職後見)、②後見の概要(成年被後見人の行為能力、成年後見人の役割)、③保佐の概要(被保佐人の行為能力、保佐人の役割)、④補助の概要(補助人の役割)について学ぶ。						
第14回	成年後見制度(2)			①任意後見の概要、②成年後見制度の最近の動向、③成年後見制度利用支援事業、④日常生活自立支援事業とその連携について学ぶ。						
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめをおこなう。						
評価 方法及び 評価 基準	<p>講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度20%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようお願いしたい。</p>									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『権利擁護を支える法制度』中央法規、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	社会福祉学特講C (コンソーシアム)		科目コード	W21055	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中	
	科目ナンバリング	W-BFCB0-05		時間	30時間						
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	齋藤章吾・藤岡真之				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]										
到達 目標											
授 業 計 画											
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	別 紙 掲 載										
第2回											
第3回											
第4回											
第5回											
第6回											
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
評価 方法 及び 評価 基準											
課題等											
事前事後 学修											
教材 教科書 参考書											
留意点											

科目名	社会福祉学特講A (子ども・家庭・社会)		科目コード	W21051	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	共通基盤科目	選択	科目ナンバリング	W-BFCB1-06	時 間	30時間	担当者名		授業 形態	講義 単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	社会福祉学特講A (障害と発達)		科目コード	W21052	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-07	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名					授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	社会福祉学特講B (老化と生体)		科目コード	W21053	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-08	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	田中 真実				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>体の基本構造を学ぶ。iPS細胞の研究を学ぶ。 ヒトの体の様々な機能が加齢によって変化することを学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>ヒトのからだの加齢現象を学ぶことができる。 ヒトのからだの生理機能を学ぶことができる。 上手に老いることの必要性を学ぶことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	体のしくみ I			ガイダンス、細胞と組織の概要 (WEBを視聴し理解を深める)						
第2回	体のしくみ II			消化吸収 (WEBを視聴し理解を深める)						
第3回	iPS細胞の研究 I			iPS細胞について、「爆笑問題の山中教授とめぐる京都大学 iPS細胞研究所」(DVD)						
第4回	iPS細胞の研究 II			冠攣縮性狭心症患者由来 iPS細胞を用いた病態の解明 (弘前大学医学研究科で行っている研究)、「夢の扉+」iPS細胞で最先端治療 ミニ肝臓 (DVD)						
第5回	老化と寿命のしくみ I			日本人の寿命 (WEBを視聴し理解を深める)						
第6回	老化と寿命のしくみ II			老化のナゾを解くための基礎知識 (WEBを視聴し理解を深める)						
第7回	老化と寿命のしくみ III			細胞は生命の「回数券」をもっている (WEBを視聴し理解を深める)						
第8回	老化と寿命のしくみ IV			活性酸素による傷が老化をひきおこす (WEBを視聴し理解を深める)						
第9回	老化と寿命のしくみ V			個体の寿命を支配するものは何か (WEBを視聴し理解を深める)						
第10回	老化と寿命のしくみ VI			コラーゲンと老化の深い関係 (WEBを視聴し理解を深める)						
第11回	老化と寿命のしくみ VII			コラーゲンと老化の深い関係 (WEBを視聴し理解を深める)						
第12回	老化と寿命のしくみ VIII			いろいろな器官の老化とその対策 (WEBを視聴し理解を深める)						
第13回	老化と寿命のしくみ IX			いろいろな器官の老化とその対策 (WEBを視聴し理解を深める)						
第14回	老化と寿命のしくみ X			老化を早めないライフスタイル (WEBを視聴し理解を深める)						
第15回	老化と寿命のしくみ XI			まとめ、課題レポート						
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価 (100%)。60%(60点)以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題等	レポート課題はTeamsにより提出する。									
事前 事後 学修	配布されたプリントを復習しておくこと。									
教材 教科書 参考書	講義時に必要なプリントを配布します。									
留意点	普段から老化と寿命について興味をもち、新聞や雑誌の健康および生活欄を見ること。									

科目名	社会福祉学特講B (現代の生活問題)		科目コード	W21054	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-09	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 主として「公的扶助論」の学修を補う目的のもので、普段何気なく過ごしている「生活」を巡る様々な問題を、様々な角度から取り上げ、理解を深める。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する									
到達 目標	「生活」を巡る諸問題を構造的に把握、理解し、社会福祉の制度や実践が果たす役割や限界の理解に繋ぐことを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	導入①		現代の「生活」問題～「生活」に焦点を当てる意義							
第2回	導入②		「現代」の生活問題～「現代」に焦点を当てる意義							
第3回	テーマ1：貧困問題①		見える貧困・見えない貧困							
第4回	テーマ1：貧困問題②		貧困論の系譜①～ブース、ラウントリー							
第5回	テーマ1：貧困問題③		貧困論の系譜②P・タウンゼント							
第6回	テーマ1：貧困問題④		貧困論の系譜③～「相対的貧困」論							
第7回	テーマ1：貧困問題⑤		貧困論の系譜④～A・セン、ヌスパウム							
第8回	テーマ1：貧困問題⑥		現代日本の貧困問題							
第9回	テーマ2：格差と法①		現代社会の格差問題							
第10回	テーマ2：格差と法②		性別と格差							
第11回	テーマ2：格差と法③		教育と格差							
第12回	テーマ2：格差と法④		障害と格差							
第13回	テーマ2：格差と法⑤		年齢と格差							
第14回	テーマ2：格差と法⑥		健康と格差							
第15回	総括		まとめと振り返り							
評価 方法 及び 評価 基準	試験のみで評価する。									
課題等	特になし。									
事前 事後 学修	特に事後学修に関して、指示された文献等の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	特になし。									
留意点	しっかりした問題意識を持たないと、履修は難しいだろう。随時、グループワークやディスカッションを行う。									

科目名	大学生のための ソーシャルスキル		科目コード 科目ナンバリング	W21022 W-BFCB1-10	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	松本 郁代・坂井 任			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 ソーシャルスキルを定義したうえで、社会の中で生きていく際に必要とされる問題解決方法や対処の仕方について講義する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 社会福祉の専門職となるには、専門的知識と同様に社会性が要求される。また、一般企業で働く際にも、ソーシャルスキルは、不可欠である。この講義では、専門職以前の当たり前の社会性を身につける科目である。</p>									
到達 目標	社会性を身につけた、当たり前の大人になること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	ソーシャルスキルとは何か		講義計画、ソーシャルスキルの定義							
第2回	ソーシャルスキルの基礎知識		ソーシャルスキルと対人関係、大学生活における対人関係							
第3回	7つの基本的なソーシャルスキル		ノンバーバルコミュニケーションとは							
第4回	真似したいノンバーバルな要素		ノンバーバルコミュニケーション攻略法						パーソナル・スペースの測定	
第5回	真似したくないコミュニケーション		コミュニケーション禁句集							
第6回	良い話相手になる為のスキル		自慢話だけではないコミュニケーション							
第7回	良い聞き手になる為のスキル		聞くだけではないコミュニケーション							
第8回	つまづいた時のソーシャルスキル		人間関係に悩む時、友人からのサポートを受けたい時							
第9回	リアクションは、社会人の第一歩		教職員とのコミュニケーションの注意点							
第10回	報告は、社会人の基本		講義受講のマナーと相談後のデューティー							
第11回	挨拶が出来ますか		研究室を訪れる時のマナー							
第12回	ハラスメントの基礎知識		学生から教員へのハラスメント？							
第13回	危険回避のためのソーシャルスキル		不当請求・架空請求・不法侵入の危険回避							
第14回	情報リテラシーのためのスキル		インターネット・コミュニケーションにおけるソーシャルスキル							
第15回	社会人になるためのソーシャルスキル		面接のテクニックだけで就職できるのか？							
評価 方法 及び 評価 基準	各講義における小テスト（短答式・客観式）を積み上げて、評価する。									
課題等	それぞれの時間に指示をする。									
事前事 後学修	指示した持参物の準備をすること。									
教材 教科書 参考書	橋本 剛（2008）『ライブラリー ソーシャルスキルを身につける 5——大学生のためのソーシャルスキル』 ISBN:978-4-7819-1183-0									
留意点	私語・遅刻厳禁。講義に出席する学生として、この二つは最低限のルール。坂井担当部分については、6月頃に予定しているが、詳細は講義中に知らせる。									

科目名	英語 I A		科目コード	W24010	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-11.S	時間	30時間				
区分	共通基礎科目	選択	担当者名	奥野 忠徳				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 簡単な表現を用いて日常生活を英語で表現する訓練を徹底的に行います。 会話が必要となる文法力と語彙力を徹底的にトレーニングで鍛えます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	場面に即した内容を英語で即座に話せるようになる技術を身につけます。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	introduction			この授業で行うことへの導入						
第2回	使える文法・英語特訓 (1)			現在進行形、英文の特訓 (1)						
第3回	使える文法・英語特訓 (2)			現在単純形、英文の特訓 (2)						
第4回	使える文法・英語特訓 (3)			現在進行形と単純形を使い分ける、英文の特訓 (3)						
第5回	使える文法・英語特訓 (4)			過去単純形、英文の特訓 (4)						
第6回	使える文法・英語特訓 (5)			過去進行形、英文の特訓 (5)						
第7回	使える文法・英語特訓 (6)			現在完了形 (1)、英文の特訓 (6)						
第8回	使える文法・英語特訓 (7)			現在完了形 (2)、英文の特訓 (7)						
第9回	使える文法・英語特訓 (8)			現在完了形 (3)、英文の特訓 (8)						
第10回	使える文法・英語特訓 (9)			現在完了進行形、英文の特訓 (9)						
第11回	使える文法・英語特訓 (10)			haveとhave got、英文の特訓 (10)						
第12回	使える文法・英語特訓 (11)			used to構文、英文の特訓 (11)						
第13回	使える文法・英語特訓 (12)			進行形の未来用法 (1)、英文の特訓 (12)						
第14回	使える文法・英語特訓 (13)			進行形の未来用法 (2)、英文の特訓 (13)						
第15回	使える文法・英語特訓 (14)			be going toと進行形の未来用法の使い分け、英文の特訓 (14)						
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果 (60点)、期末試験 (40点) で評価します。 簡単な英語での会話が正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。									
課題等	特にありません。									
事前事後 学修	事後復習は必要です。									
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。									
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。90分間一切気を抜くことはできません。									

科目名	英語 I B		科目コード	W24011	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-12.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	奥野 忠徳				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 簡単な表現を用いて日常生活を英語で表現する訓練を徹底的に行います。 会話で必要となる文法力と語彙力を徹底的にトレーニングで鍛えます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	場面に即した内容を英語で即座に話せるようになる技術を身につけます。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	introduction		導入、willとshall (1)、英文の特訓 (1)							
第2回	使える文法・英語特訓 (1)		willとshall (2)、英文の特訓 (2)							
第3回	使える文法・英語特訓 (2)		willとbe going toの使い分け、英文の特訓 (3)							
第4回	使える文法・英語特訓 (3)		英語の未来表現の総復習 (1)、英文の特訓 (4)							
第5回	使える文法・英語特訓 (4)		英語の未来表現の総復習 (2)、英文の特訓 (5)							
第6回	使える文法・英語特訓 (5)		ifとwhen (1)、英文の特訓 (6)							
第7回	使える文法・英語特訓 (6)		ifとwhen (2)、英文の特訓 (7)							
第8回	使える文法・英語特訓 (7)		can (1)、英文の特訓 (8)							
第9回	使える文法・英語特訓 (8)		can (2)、英文の特訓 (9)							
第10回	使える文法・英語特訓 (9)		mustとmay (1)、英文の特訓 (10)							
第11回	使える文法・英語特訓 (10)		mustとmay (2)、英文の特訓 (11)							
第12回	使える文法・英語特訓 (11)		have toとmustの使い分け、英文の特訓 (12)							
第13回	使える文法・英語特訓 (12)		should (1)、英文の特訓 (13)							
第14回	使える文法・英語特訓 (13)		should (2)、英文の特訓 (14)							
第15回	使える文法・英語特訓 (14)		should (3)、英文の特訓 (15)							
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果 (60点)、期末試験 (40点) で評価します。 簡単な英語での会話が正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。									
課題等	特にありません。									
事前事後 学修	事後復習は必要です。									
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。									
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。90分間一切気を抜くことはできません。									

科目名	英語 I C		科目コード	W24012	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-13.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	澤田 真一				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	英語で読む、書く、聞く、話すことを通じて、自己表現の方法を学びます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	英語を好きになる。英語の構造に注意を払いながら、正しく読めるようになる。英語を使って自己表現ができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	導入		イントロダクション							
第2回	ディスカッション		なぜ英語を勉強するのか						グループワーク、 ディスカッション	
第3回	コミュニケーション1		自己表現							
第4回	コミュニケーション2		自己表現							
第5回	ライティング1		英語で詩を書く							
第6回	ライティング2		詩の鑑賞・説明							
第7回	ビデオ		鑑賞							
第8回	ディスカッション		スクリプトの読解						グループワーク、 ディスカッション	
第9回	コミュニケーション3		写真を用いた家族の紹介						グループワーク、 ディスカッション	
第10回	リーディング1		ノン・フィクション							
第11回	リーディング2		ノン・フィクション							
第12回	リーディング3		ノン・フィクション							
第13回	スピーチ1		英語での弁論							
第14回	スピーチ2		英語での弁論							
第15回	試験		まとめと試験							
評価 方法 及び 評価 基準	言語活動20%、パーティシペーション・ポイント20%、期末試験60% 到達目標に照らし合わせ、自発的に正しい英語で自己表現ができているかを重視します。試験では、講義で扱った教材についての文法・読解問題と、自分の考えを述べるエッセー問題を出します。									
課題等										
事前事後 学修	課題等は次時間に返却しますが、不十分な場合は再提出とします。授業で事前に配布するプリントは必ず読んでから参加してもらい									
教材 教科書 参考書	授業時にプリントを配布します。									
留意点	何よりも学生の自主性を重視します。									

科目名	英語 I D		科目コード	W24013	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-14.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	澤田 真一				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>英語で読む、書く、聞く、話すことを通じて、自己表現の方法を学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	英語を好きになる。英語の構造に注意を払いながら、正しく読めるようになる。英語を使って自己表現ができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	導入		イントロダクション							
第2回	コミュニケーション1		対話の仕方						グループワーク、 ディスカッション	
第3回	コミュニケーション2		対話の仕方						グループワーク、 ディスカッション	
第4回	ライティング1		英語で物語を書く							
第5回	ライティング2		エディティング							
第6回	ライティング3		物語の鑑賞・説明						グループワーク、 ディスカッション	
第7回	ビデオ		鑑賞							
第8回	ディスカッション		スクリプトの読解						グループワーク、 ディスカッション	
第9回	コミュニケーション3		本の紹介						グループワーク、 ディスカッション	
第10回	リーディング1		フィクション							
第11回	リーディング2		フィクション							
第12回	リーディング3		フィクション							
第13回	スピーチ1		英語での弁論							
第14回	スピーチ2		英語での弁論							
第15回	試験		まとめと試験							
評価 方法 及び 評価 基準	言語活動20%、パーティシペーション・ポイント20%、期末試験60% 到達目標に照らし合わせ、自発的に正しい英語で自己表現ができてくるかを重視します。試験では、講義で扱った教材についての文法・読解問題と、自分の考えを述べるエッセー問題をします。									
課題等	課題等は次時間に返却しますが、不十分な場合は再提出とします。									
事前事後 学修										
教材 教科書 参考書	授業で事前に配布するプリントは必ず読んでから参加してもらいます。準備学習時間の目安：1日当たり30分程度。授業時にプリント									
留意点	何よりも学生の自主性を重視します。									

科目名	ドイツ語A		科目コード	W24014	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-15.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	田中 岩男				授業 形態	講義	単独
授業の 概要	[授業の主旨] [キーワード: 聞く・話す・書く] ドイツ語の基礎的な運用能力(聞く・話す・書く)を養う。 ドイツ語の学習を通して、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	つづりと発音 (1)			アルファベットと簡単な挨拶						
第2回	つづりと発音 (2)			母音と子音、数の読み方						
第3回	ホンダミカと申します (1)			1課: 人称代名詞と動詞のかたち						
第4回	ホンダミカと申します (2)			1課: 練習問題と演習						
第5回	何を飲むの? (1)			2課: 名詞の性と語順						
第6回	何を飲むの? (2)			2課: 練習問題と演習						
第7回	そのカサいくらですか (1)			3課: 定冠詞と名詞の格						
第8回	そのカサいくらですか (2)			3課: 練習問題と演習						
第9回	コーヒー 1 杯ください (1)			4課: 不定冠詞とその仲間						
第10回	コーヒー 1 杯ください (2)			4課: 練習問題と演習						
第11回	バスは何時に出来ますか (1)			5課: 不規則に変化する動詞 (1)						
第12回	バスは何時に出来ますか (2)			5課: 練習問題と演習						
第13回	何を注文する? (1)			6課: 不規則に変化する動詞 (2)						
第14回	何を注文する? (2)			6課: 練習問題と演習						
第15回	まとめ			前期の総まとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	出席状況・授業への参加度・定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度(出席状況を含む)50% 定期試験 50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試みます。									
課題等	各課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復誦します。									
事前事後 学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材 教科書 参考書	『イン・ドイチュラントードイツ語インフォメーション 映像付』 (朝日出版社) [ISBN 978-4-255-25388-6]を教科書として使います。 『やさしい! ドイツ語の学習辞典』(同学社) [ISBN 978-4-8102-0005-8]を辞書として推薦します。									
留意点	もう1コマの「ドイツ語」と共通教科書を使い、連携して理解を深めます。 楽しみながら、新しいことに挑戦するつもりで積極的に参加してください。									

科目名	ドイツ語B		科目コード	W24015	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-16.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	田中 岩男				授業 形態	講義	単独
授業の 概要	〔授業の主旨〕〔キーワード：聞く・話す・書く〕 ドイツ語の基礎的な運用能力（聞く・話す・書く）を養う。 ドイツ語の学習を通して、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	前期復習			復習とコミュニケーション演習						
第2回	カフェに行きましょう (1)			7課：前置詞の使い方						
第3回	カフェに行きましょう (2)			7課：練習問題と演習						
第4回	写真を撮っていい？(1)			8課：助動詞の用法						
第5回	写真を撮っていい？(2)			8課：練習問題と演習						
第6回	列車は何時に出るの？(1)			9課：分離する動詞の用法						
第7回	列車は何時に出るの？(2)			9課：練習問題と演習						
第8回	サッカーに興味ある？(1)			10課：再帰動詞とその用法						
第9回	サッカーに興味ある？(2)			10課：練習問題と演習						
第10回	モーツァルトだったよね？(1)			11課：動詞の三基本形と過去時称						
第11回	モーツァルトだったよね？(2)			11課：練習問題と演習						
第12回	ミュンヘンで何を見物したの？(1)			12課：現在完了形とその用法						
第13回	ミュンヘンで何を見物したの？(2)			12課：練習問題と演習						
第14回	総復習			復習とコミュニケーション演習						
第15回	まとめ			後期の総まとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	出席状況・授業への参加度・定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度（出席状況を含む）50% 定期試験 50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試します。									
課題等	各課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復誦します。									
事前事後 学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材 教科書 参考書	『イン・ドイチュラントードイツ語インフォメーション 映像付』 (朝日出版社) [ISBN 978-4-255-25388-6]を教科書として使います。 『やさしい！ドイツ語の学習辞典』（同学社）[ISBN 978-4-8102-0005-8]を辞書として推薦します。									
留意点	もう1コマの「ドイツ語」と共通教科書を使い、連携して理解を深めます。 楽しみながら、新しいことに挑戦するつもりで積極的に参加してください。									

科目名	ドイツ語C		科目コード	W24016	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-17.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	田中 寿子				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	① ドイツ語で挨拶ができる。 ② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	発音の基礎(1)			挨拶・つづりと発音を学ぶ(1)						
第2回	発音の基礎(2)			挨拶・つづりと発音を学ぶ(2)						
第3回	自己紹介(1)			公的な場面・距離のある相手に対して						
第4回	自己紹介(2)			私的な場面・距離のない相手に対して						
第5回	質問する・答える(1)			「はい」「いいえ」を使って答える						
第6回	質問する・答える(2)			「はい」「いいえ」を使わずに答える						
第7回	買い物する(1)			数詞を学ぶ / 値段を尋ねる・答える / 時刻を尋ねる・答える						
第8回	買い物する(2)			店に入って買い物する						
第9回	～はありますか？(1)			「あります！」と答える						
第10回	～はありますか？(2)			「ありません」と答える						
第11回	電話で友達を誘う(1)			電話の表現・誘いかけの表現(1)						
第12回	電話で友達を誘う(2)			電話の表現・誘いかけの表現(2)						
第13回	カフェで注文する			友達と何を頼むか相談してから注文する						
第14回	総復習(1課～6課)			プリントで学習内容を総復習						
第15回	まとめ(1課～6課)			学習内容を総仕上げ						
評価 方法 及び 評価 基準	・ 期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。 ・ 授業への参加度を重視します。									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前事後 学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材 教科書 参考書	教科書は『イン・ドイチュラント』（朝日出版社）[ISBN978-4-255-25388-6]辞書には「やさしい！ドイツ語の学習辞典」（同学社）[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。 （社会福祉学部のドイツ語は共通教科書を使い連携して理解を深めます）									
留意点										

科目名	ドイツ語 D		科目コード	W24017	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-18. S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	田中 寿子				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	① ドイツ語で挨拶ができる。									
	② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	思い出そう！		前期に学んだ内容を復習する							
第2回	～は？～を？		～は～を愛している							
第3回	道を尋ねる・教える(1)		道案内に役立つ表現を学ぶ(1)							
第4回	道を尋ねる・教える(2)		道案内に役立つ表現を学ぶ(2)							
第5回	ニュアンス表現(1)		～できますか？～しなければならない、など							
第6回	ニュアンス表現(2)		～したいのですが、～をしてもよいですか？など							
第7回	ユニークな動詞		ユニークな動詞を使ってドイツ語の語順について理解する							
第8回	何時に～する		「～時に～する」と時刻を話題にする							
第9回	古い車・私の車は古い		「古い」などの形容詞を使う時に注意すること							
第10回	「自分」・趣味の話をする		「自分」表現・「好きなこと」について話す・尋ねる							
第11回	過去を表現する(1)		過去のことを話す(1)							
第12回	メール・カードを書く		クリスマス・新年・誕生日を祝う表現、メールやカードを書く							
第13回	過去を表現する(2)		過去のことを話す(2)							
第14回	総復習(6課～12課)		プリントで学習内容を総復習							
第15回	まとめ(6課～12課)		学習内容の総仕上げ							
評価 方法 及び 評価 基準	・ 期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。 ・ 授業への参加度を重視します。									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前事後 学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材 教科書 参考書	教科書は『イン・ドイチュラント』（朝日出版社）[ISBN978-4-255-25388-6] 辞書には「やさしい！ドイツ語の学習辞典」（同学社）[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。 (社会福祉学部のドイツ語は共通教科書を使い連携して理解を深めます)									
留意点										

科目名	フランス語A		科目コード	W24018	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-19.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	松山 和子				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>フランス語の基本要素や特徴を知り、日本語や英語との違いを比較しながら、コミュニケーション・ツールとしてのフランス語を身につけます。また、フランス語圏の文化や歴史、日常生活にも触れ、旅先で使うことだけでなく、日本を訪れるフランス語圏の人々との交流も視野に入れ、実践的な授業を行います。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	フランス語で自己紹介・他己紹介ができるようになる！									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	挨拶と教室で使う表現		フランス語のアルファベット・発音と綴り字・挨拶						グループワーク	
第2回	名前・国籍、元気がどうかを聞く①		第1課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第3回	名前・国籍、元気がどうかを聞く②		第1課：前回の学習内容の復習→応用と実践（名前、国籍、元気がどうかを尋ねたり、答えたりする）						グループワーク	
第4回	職業、住んでいるところを言う①		第2課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第5回	職業、住んでいるところを言う②		第2課：前回の学習内容の復習→応用と実践（職業、住んでいるところを言う）						グループワーク	
第6回	話す言語①		第3課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第7回	話す言語②		第3課：前回の学習内容の復習→応用と実践（話せる言語と話せない言語について）						グループワーク	
第8回	持ち物、兄弟姉妹、年齢について言う①		第4課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第9回	持ち物、兄弟姉妹、年齢について言う②		第4課：前回の学習内容の復習→応用と実践（持っているもの・いないもの、兄弟姉妹の有無、年齢について話す）						グループワーク	
第10回	人物描写①		第5課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第11回	人物描写②		第5課：前回の学習内容の復習→応用と実践（人について説明する）						グループワーク	
第12回	これは何ですか？ ～はどこですか？①		第6課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第13回	これは何ですか？ ～はどこですか？②		第6課：前回の学習内容の復習→応用と実践（物や場所について尋ねたり、答えたりする）						グループワーク	
第14回	前期の復習①		自己紹介文を作り発表						プレゼンテーション	
第15回	前期の復習②		他己紹介文を作り発表						プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価50%（グループワークや課題等への取り組み方を評価します）。定期試験50%（試験は口頭発表ですので、フランス語による表現力が評価されます）。									
課題等	課題（宿題）出された場合は、定められた期限内に提出してください。次時間以降の授業時に返却します。									
事前事後 学修	毎回きちんと復習をし、次回の授業に備えてください。									
教材 教科書 参考書	『新装 カフェ・フランセ』 朝日出版社 ISBN 978-4-255-35262-6 C1085									
留意点	双方向的な授業形態を採っていますので、質問や意見交換等は大いに歓迎します。									

科目名	フランス語B		科目コード	W24019	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-20.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	松山 和子				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 フランス語の基本要素や特徴を知り、日本語や英語との違いを比較しながら、コミュニケーション・ツールとしてのフランス語を身につけます。また、フランス語圏の文化や歴史、日常生活にも触れ、旅先で使うことだけでなく、日本を訪れるフランス語圏の人々との交流も視野に入れ、実践的な授業を行います。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	フランス語で簡単な会話ができるようになる！									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	好きなもの・嫌いなもの①		第7課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第2回	好きなもの・嫌いなもの②		第7課：前回の学習内容の復習→応用と実践（好き嫌いについて話す）						グループワーク	
第3回	天気と服装①		第8課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第4回	天気と服装②		第8課：前回の学習内容の復習→実践と応用（どんな天気か、何を身に着けているかについて話す）						グループワーク	
第5回	朝ごはん・スポーツ①		第9課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第6回	朝ごはん・スポーツ②		第9課：前回の学習内容の復習→応用と実践（食べ物やスポーツについて話す）						グループワーク	
第7回	～へ行きましょう！①		第10課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第8回	～へ行きましょう！②		第10課：前回の学習内容の復習→応用と実践（行くところ、行きたいところについて話す）						グループワーク	
第9回	起きる時間・寝る時間①		第11課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第10回	起きる時間・寝る時間②		第11課：前回の学習内容の復習→応用と実践（平日にすること）						グループワーク	
第11回	起きる時間・寝る時間③		第11課：前回の学習内容の復習→応用と実践（休日にすること）						グループワーク	
第12回	人についての情報を得る①		第12課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第13回	人についての情報を得る②		第12課：前回の学習内容の復習→応用と実践（有名人について話す）						グループワーク	
第14回	後期の復習①		日常生活について話す						プレゼンテーション	
第15回	後期の復習②		休暇の過ごし方について話す						プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価50%（グループワークや課題等への取り組み方を評価します）。定期試験50%（試験は口頭発表ですので、フランス語による表現力が評価されます）。									
課題等	課題（宿題）が出された場合は、定められた期限内に提出してください。次時間以降の授業時に返却します。									
事前事後 学修	毎回きちんと復習をし、次回の授業に備えてください。									
教材 教科書 参考書	『新装 カフェ・フランセ』 朝日出版社 ISBN 978-4-255-35262-6 C1085									
留意点	双方向的な授業形態を採っていますので、質問や意見交換等は大いに歓迎します。									

科目名	フランス語C		科目コード	W24020	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-21.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	工藤 貴子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 仏語の基礎的会話表現の習得を目標とするもう一方の授業の助けとなるよう、この授業では身につけた表現に文法的な側面から説明を加え、多様な表現に応用できるようにします。また、正確な発音のためにスペルと音の密接な関係を理解して円滑な発話行為につなげます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。									
到達 目標	①外国語に苦手意識がある場合はその解消をし、他者や他国のことを知る楽しさに目覚める。 ②自分や周りの人について、平易なフランス語で説明できる。 ③②に必要なフランス語の基礎的文法知識や発音の規則が身についている。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	アルファベ		自分の名前を言う／アルファベ（暗記）						グループワーク	
第2回	主語人称代名詞、他者の名前を言う		他者の名前とそのスペルをアルファベで言う						ペアワーク	
第3回	国籍の女性形		自分や他者の国籍を言う／国籍の女性形の作り方を理解する							
第4回	動詞 être 活用		動詞 être を使って国籍や出身地を言う						プレゼンテーション	
第5回	職業の女性形		動詞 être 活用小テスト→職業の女性形の作り方理解、口頭練習						グループワーク	
第6回	第一群規則動詞(1)		話せる言語、住んでいる都市を言う／第一群規則動詞活用練習						ペアワーク	
第7回	第一群規則動詞(2)		第一群規則動詞小テスト→第一群規則動詞の正しい発音→問題演習							
第8回	否定形の作り方		話せる言語と話せない言語を言う(口頭練習)→問題演習						ペアワーク	
第9回	動詞 avoir 活用		avoir を使って自分や他者の年齢を言う						ペアワークとプレゼンテーション	
第10回	名詞の性と不定冠詞		動詞 avoir を使って兄妹構成を言う						ペアワーク	
第11回	形容詞の性の一致／形容詞の位置(原則)		自分の外見や性格を描写する						ペアワーク	
第12回	形容詞の性数一致／形容詞の位置(例外)		他者の外見や性格を紹介する→問題演習							
第13回	所有形容詞①「私の」		自分の家族を紹介する						ペアワーク	
第14回	所有形容詞②「あなたの」「彼女の」		他者の家族構成を尋ねる、説明する						グループワーク	
第15回	前期まとめ		文法事項、発音とつづり字の規則を中心に総復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度(10%)、適宜行う小テストと課題の提出状況(10%)、期末試験(80%=内容理解を問うリスニング問題20~30%+文法知識を問う筆記問題70~80%)									
課題等	課題や小テストは適宜コメントをつけて次回授業で返却し、解説を行います									
事前事後 学修	前回授業の復習を一日あたり30分以上行って出席して下さい。また授業で適宜フランス事情や文化を紹介し、関連参考文献も紹介しますので、それを読んで関心や理解を深めるようにしましょう。									
教材 教科書 参考書	ニコラ・ガイヤール他著 <i>Café Français Nouveau</i> 『新装 カフェ・フランセ』（朝日出版社） ISBN 978-4-255-35262-6 C1085									
留意点	ペアで履修する「フランス語IA」と共通テキストを使い、連携して授業を行うことで理解を深められるようにします。文法理解を目標としますが、仏語のしくみをみなさん自身で発見できるよう配慮しますので、質問などの発言を大いに歓迎します。欠席した場合、授業内容や課題・小テストの有無の確認はクラスメートか、右記の担当教師アドレスまで： lutetia_lutetia@yahoo.co.jp									

科目名	フランス語D		科目コード	W24021	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-22.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	工藤 貴子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 仏語の基礎的会話表現の習得を目標とするもう一方の授業の助けとなるよう、この授業では身につけた表現に文法的な側面から説明を加え、多様な表現に応用できるようにします。また、正確な発音のためにスペルと音の密接な関係を理解して円滑な発話行為につなげます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>① 自分の意思や行動を仏語で説明できる ② ①に必要な文法の基礎や発音の規則が身についている ③ 英語以外の外国語に触れることでより幅広い視野と関心を獲得し、自己と自己を取り巻く環境を複眼的に観察できる</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	前期の復習、モノの位置を説明する		場所を表す語句をマスターし、位置を説明する口頭練習						ペアワーク	
第2回	好みを言う		第一群規則動詞(aimer, adorer, préférer)活用復習→好みを言う						ペアワーク	
第3回	定冠詞		好みを言う(復習)→不定冠詞と定冠詞の使い分け理解→問題演習							
第4回	比較級		比較級を用いて自分の意見を言う						グループワーク	
第5回	特殊な優等比較級、非人称構文		比較級の問題演習→天候を言う口頭練習							
第6回	動詞 vouloir 活用、部分冠詞①		不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の概念の理解							
第7回	動詞 prendre 活用、部分冠詞②		朝食のメニューを説明する						ペアワーク	
第8回	動詞 faire 活用、頻度の副詞		するスポーツを話す						ペアワーク	
第9回	動詞 aller 活用、前置詞 à と定冠詞の縮約		行き先を言う						ペアワーク	
第10回	前置詞 de と定冠詞の縮約		問題演習							
第11回	複合過去(助動詞avoir)		過去分詞の作り方、週末を語る(1)							
第12回	複合過去(助動詞être)		過去分詞の性数一致、週末を語る(2)							
第13回	複合過去まとめ/時刻を尋ねる、言う(1)		複合過去問題演習→「時刻を尋ねる・言う」ための表現							
第14回	時刻を尋ねる、言う(2)		「～分」の注意すべき表現						ペアワーク	
第15回	後期まとめ		文法事項、発音とつづり字の規則を中心に総復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度(10%)、適宜行う小テストと課題の提出状況(10%)、期末試験(80%=内容理解を問うリスニング問題20~30%+文法知識を問う筆記問題70~80%)									
課題等	課題や小テストは適宜コメントをつけて次回授業で返却し、解説を行います									
事前事後 学修	前回授業の復習を一日あたり30分以上行って出席して下さい。また授業で適宜フランス事情や文化を紹介し、関連参考文献も紹介しますので、それを読んで関心や理解を深めるようにしましょう。									
教材 教科書 参考書	ニコラ・ガイヤール他著 <i>Café Français Nouveau</i> 『新装 カフェ・フランセ』(朝日出版社) ISBN 978-4-255-35262-6 C1085									
留意点	ペアで履修する「フランス語IB」と共通テキストを使い、連携して授業を行うことで理解を深められるようにします。文法理解を目標としますが、仏語のしくみをみなさん自身で発見できるよう配慮しますので、質問などの発言を大いに歓迎します。欠席した場合、授業内容や課題・小テストの有無の確認はクラスメートか、右記の担当教師アドレスまで： lutetia_lutetia@yahoo.co.jp									

科目名	中国語 A		科目コード	W24022	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-23. S	時間	30時間				
区分	共通基礎科目	選択	担当者名	顧 偉良				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	中国語の基礎的文法、正確な発音、会話を身につけること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	単母音、複母音の練習		単母音、複母音の特徴、発音の要領							
第2回	単母音、複母音の練習		単母音、複母音の特徴、発音の要領							
第3回	子音の練習		子音の特徴、発音の要領□							
第4回	子音の練習		子音の特徴、発音の要領							
第5回	鼻母音の練習□		鼻母音の特徴、発音の要領□							
第6回	鼻母音の練習		鼻母音の特徴、発音の要領							
第7回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文をあげながら練習する							
第8回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文をあげながら練習する							
第9回	数字と量詞、疑問詞		助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する□							
第10回	数字と量詞、疑問詞		助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する							
第11回	動詞文、副詞		動詞文、副詞について例文をあげながら練習する							
第12回	動詞文、副詞		動詞文、副詞について例文をあげながら練習する							
第13回	指示代名詞の使い方		这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する							
第14回	指示代名詞の使い方		这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する							
第15回	復習、まとめ□		習った基礎文法や文型の復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前事後 学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり（文学部40名、社福学部10名）。									

科目名	中国語B		科目コード	W24023	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-24. S	時 間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	顧 偉良				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。									
到達 目標	中国語の発音、基礎文法、基礎会話を身につけ、コミュニケーションの能力を高めるのが目標である。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	助動詞、反復疑問文			助動詞や文型について						
第2回	助動詞、反復疑問文			助動詞や文型について						
第3回	前置詞（介詞）、从、到、离			前置詞や文型について						
第4回	前置詞（介詞）、从、到、离			前置詞や文型について						
第5回	存在文、在□			存在文の文型について						
第6回	存在文、在			存在文の文型について						
第7回	動態助詞“得”の使い方			中国語“助詞”の特徴について						
第8回	動態助詞“得”の使い方			中国語“助詞”の特徴について						
第9回	過去の経験を表す文型“过”□			“过”について過去の経験を言い表す文型を教える。						
第10回	過去の経験を表す文型“过”			“过”について過去の経験を言い表す文型を教える。						
第11回	助動詞“打算”			助動詞“打算”の文型について						
第12回	助動詞“打算”			助動詞“打算”の文型について						
第13回	自己紹介の言い方			自己紹介に関する具体的な例文を教える。						
第14回	自己紹介の言い方			自己紹介に関する具体的な例文を教える。						
第15回	復習・まとめ□			総合復習□						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前事後 学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり（文学部40名、社福学部10名）。									

科目名	中国語 C		科目コード	W24024	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-25.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	顧 偉良				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	中国語の発音、基礎文法、基礎会話を身につけて、コミュニケーションの能力を高めるのが目標である。□									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	単母音、複母音の特徴			単母音、複母音の特徴						
第2回	単母音、複母音の特徴			単母音、複母音の特徴						
第3回	子音の特徴□			子音の特徴、発音の要領						
第4回	子音の特徴			子音の特徴、発音の要領						
第5回	鼻母音の練習			鼻母音の特徴、発音の要領						
第6回	鼻母音の練習			鼻母音の特徴、発音の要領						
第7回	人称代名詞、疑問助詞			我、你、他、她について例文をあげながら練習する						
第8回	人称代名詞、疑問助詞			我、你、他、她について例文をあげながら練習する						
第9回	数字と量詞、疑問詞			助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する						
第10回	数字と量詞、疑問詞			助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する						
第11回	動詞文、副詞□			動詞文、副詞について例文をあげながら練習する						
第12回	動詞文、副詞			動詞文、副詞について例文をあげながら練習する						
第13回	指示代名詞の使い方			这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する						
第14回	指示代名詞の使い方			这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する						
第15回	復習・まとめ			習った基礎文法や文型の復習						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。□									
事前事後 学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。□									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり（文学部40名、社福学部10名）。									

科目名	中国語D		科目コード	W24025	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-26.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	顧 偉良			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	中国語の発音や基礎文法と基礎会話を身につけ、コミュニケーションの能力を高めるのが目標である。□									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	助動詞、反復疑問文			助動詞や文型について						
第2回	助動詞、反復疑問文			助動詞や文型について						
第3回	前置詞（介詞）、从、到、离			前置詞や文型について						
第4回	前置詞（介詞）、从、到、离			前置詞や文型について						
第5回	存在文”在” □			存在文の文型について						
第6回	存在文”在”			存在文の文型について						
第7回	動態助詞”得”の使い方			助詞”得”の特徴について						
第8回	動態助詞”得”の使い方			助詞”得”の特徴について						
第9回	過去の経験を表す文型”过” □			”过”について過去の経験を言い表す文型を教える。						
第10回	過去の経験を表す文型”过”			”过”について過去の経験を言い表す文型を教える。						
第11回	助動詞”打算” □			助動詞”打算”の文型について						
第12回	助動詞”打算”			助動詞”打算”の文型について						
第13回	自己紹介の言い方			自己紹介に関する具体的な例文を教える。						
第14回	自己紹介の言い方			自己紹介に関する具体的な例文を教える。						
第15回	復習・まとめ			総合復習						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。□									
事前事後 学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり(文学部40名、社福学部10名)。									

科目名	韓国語A		科目コード	W24026	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-27.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	ケン・テホ				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 国際通用韓国語標準教育課程 1級に準ずる韓国語の文法、単語、表現を学びます。1級に準ずる韓国語を読む、書く、聞く、話すようになります。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。									
	到達 目標	① ハングルの読み書きができるようになります。 ② 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な約44個の文法内容を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な約288個の単語を学びます。 ④ 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な色々な状況における韓国語の表現を学びます。 ⑤ 韓国の文化を学びます。								
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	韓国語入門①：韓国語とハングル 韓国語入門②：基本母音		① 韓国文化の紹介、ハングルの歴史、ひらがなとハングルの違い ② 音節の構成、基本母音 (ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㅡ, ㅍ, ㅍ)						グループワーク (会話)	
第2回	韓国語入門③：基本子音		① 基本子音 (ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㅡ, ㅍ, ㅍ) ② 練習活用 (1)						グループワーク (会話)	
第3回	韓国語入門④：激音と硬音		① 激音 (ㅋ, ㆁ, ㆁ, ㆁ, ㆁ) ② 硬音 (ㅌ, ㅌ, ㅌ, ㅌ, ㅌ), 練習活用 (2)						グループワーク (会話)	
第4回	韓国語入門⑤：二重母音 韓国語入門⑥：パッチム1		① 二重母音 (ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅝ, ㅟ), 練習活用 (3) ② パッチム (ㅇㅇㄴㅇㅇㅇㅇ), 練習活用 (4)						グループワーク (会話)	
第5回	韓国語入門⑦：パッチム2と連音 韓国語入門⑧：教室表現・挨拶表現		① パッチム (ㄹㅇㅇㅇㅇㅇㅇㅇ), 連音、練習活用 (5) ② 教室でよく使う表現・挨拶の表現						グループワーク (会話)	
第6回	初級 1-1：自己紹介 初級 1-2：家族		① 文法 (은, 이다), 挨拶、自己紹介 ② 文法 (이, 이 아니다), 家族の紹介、家族の職業の紹介						グループワーク (会話)	
第7回	初級 1-3：日常生活 初級 1-4：学校		① 文法 (습니다, 을, 도), 好きなもの、好きな食べ物 ② 文法 (과, 하고, 의), 学校の紹介、教室の紹介						グループワーク (会話)	
第8回	初級 1-5：天気 1 復習問題 1-1		① 文法 (-어요, -지 않다), 天気の表現、韓国の季節 ② 復習・復習問題 1-1						グループワーク (会話)	
第9回	初級 1-6：友だち 初級 1-7：位置		① 文法 (에게, 한테, 만), 友だちについて話す、手紙 ② 文法 ((장소)에, 에서), 位置について話す、部屋の紹介						グループワーク (会話)	
第10回	初級 1-8：日にち 初級 1-9：運動		① 文法 (-었-, (시간)에), 週末にしたこと ② 文法 (부터, -지 못하다), 好きなスポーツについて						グループワーク (会話)	
第11回	初級 1-10：約束 復習問題 1-2		① 文法 (-을까, -읍시다, -고), 提案、週末計画 ② 復習・復習問題 1-2						グループワーク (会話)	
第12回	初級 1-11：食べ物 初級 1-12：買い物 1		① 文法 (-어서, -고 싶다), メニューを決める ② 文法 (-지만, 보다), プレゼントのおすすめ						グループワーク (会話)	
第13回	初級 1-13：趣味 1 初級 1-14：旅行		① 文法 (-을 수 있다, -고 있다), 趣味について ② 文法 (-기 전에, -으려고), 旅行計画について						グループワーク (会話)	
第14回	初級 1-15：健康 1 復習問題 1-3		① 文法 (-은 후에, -으세요), 健康症状について ② 復習・復習問題 1-3						グループワーク (会話)	
第15回	スピーキングテストの練習 まとめ		① スピーキングテストの練習 ② まとめ						グループワーク (会話)	
評価 方法及び 評価 基準	① 授業への参加度 (25%) ② ワークブック (25%) ③ 期末試験 (25%) ④ スピーキングテスト (25%)									
課題等	① ワークブックは白紙に答えだけを書いて提出してください。 ② 試験の形式は教科書の復習問題を参考してください。 ③ 最後の2時間にはスピーキングテストを行います。									
事前事後 学修	① 事前学修：教科書に出ている単語で単語集を作成してください。 ② 事後学修：教科書の各チャプタに対するワークブックに取り組んでください。韓国語の動画(映画・ドラマなど)を毎週1時間以上視聴してください。単語集の単語を覚えてきてください。必要な学修時間は週に3時間以上です。									
教材 教科書 参考書	① オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 入門(データで配布) ② オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級1 ISBN 979-11-85872-74-2 (データで配布) ③ サイバー韓国語 初級1 ワークブック ISBN 979-11-6904-028-0(93710) (データで配布)									
留意点	① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。購入希望者は講師に連絡してください。 ② 課題・試験の解答用紙には必ず名前と学籍番号を各ページごとに書いてください。 ③ スピーキングテストの時間は必ず厳守してください。事前連絡無しで遅れる場合は失格とします。									

科目名	韓国語B		科目コード	W24027	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナバ"リク"	W-BFCBO-34. S	時 間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	ケン・テホ				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 国際通用韓国語標準教育課程 2級に準ずる韓国語の文法、単語、表現を学びます。2級に準ずる韓国語を読む、書く、聞く、話すようになります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>① 国際通用韓国語標準教育課程 2級に必要な約46個の文法内容を学びます。 ② 国際通用韓国語標準教育課程 2級に必要な約251個の単語を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程 2級に必要な色々な状況においての韓国語の表現を学びます。 ④ 韓国の文化を学びます。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	初級 1-16 : 交通 初級 1-17 : 招待		① 文法 (에서, 까지, -으십시오)、目的地まで行く方法 ② 文法 (-어아 되다, -고요)、家に招待する						グループワーク (会話)	
第2回	初級 1-18 : 余暇時間 初級 1-19 : 方向		① 文法 (-으니가, 으로)、目的地まで行く方法 ② 文法 (-으로, 이랑)、家に招待する						グループワーク (会話)	
第3回	初級 1-20 : 訪問 初級 2-1 : 天気2		① 文法 (-으시-, 께서)、友だちの家の訪問 ② 文法 (-겠-, -네)、天気を推測する						グループワーク (会話)	
第4回	初級 2-2 : 買い物 2 初級 2-3 : 外見		① 文法 (에게서, 한테서, -어 보다)、買い物の場所 ② 文法 (-은, -는, 께)、外見の描写						グループワーク (会話)	
第5回	初級 2-4 : 買い物 3 初級 2-5 : 注文		① 文法 (-는데, -는 것)、食材について ② 文法 (-을게, -기)、注文する時の表現						グループワーク (会話)	
第6回	復習問題 1-4 & 復習問題 2-1 初級 2-6 : 休暇		① 復習・復習問題 1-4・復習問題 2-1 ② 文法 (-은 적이 있다, -기로 하다)、休暇計画について						グループワーク (会話)	
第7回	初級 2-7 : 健康 2 初級 2-8 : 映画		① 文法 (-게, -지 말다)、健康状態と治療方法について ② 文法 (-을래, 밖에)、映画の予約について						グループワーク (会話)	
第8回	初級 2-9 : 休日 初級 2-10 : 学校生活		① 文法 (-는데, 마다)、休日についてする活動について ② 文法 (-지, -을 수밖에 없다)、大学の規則について						グループワーク (会話)	
第9回	初級 2-11 : 公共サービス 初級 2-12 : 対人関係		① 文法 (-다가, 에서부터)、物を紛失した時について ② 文法 (-은, 어 주다)、友だちを紹介することについて						グループワーク (会話)	
第10回	初級 2-13 : 家庭生活 初級 2-14 : 生活便利施設		① 文法 (-는 동안에, -으면서)、家事について ② 文法 (-을 것, -기 때문에, -음)、便利施設の利用について						グループワーク (会話)	
第11回	初級 2-15 : 配達 復習問題 2-2 & 復習問題 2-3		① 文法 (에다가, -으면)、食べ物配達注文について ② 復習・復習問題 2-2・復習問題 2-3						グループワーク (会話)	
第12回	初級 2-16 : 衣服 初級 2-17 : 趣味 2		① 文法 (처럼, -어도 되다)、定員との会話、ファッション ② 文法 (-을 때, -게 되다, 에게로)、趣味に関して						グループワーク (会話)	
第13回	初級 2-18 : 集まり 初級 2-19 : 家		① 文法 (-은 지, -어 있다, -는군)、招待について ② 文法 (-거나, 이나, -을까 보다)、生活環境について						グループワーク (会話)	
第14回	初級 2-20 : 約束 復習問題 2-4 & まとめ		① 文法 (-을, -을 것 같다)、提案することについて ② 復習・復習問題 2-4						グループワーク (会話)	
第15回	スピーキングテストの練習 まとめ		① スピーキングテストの練習 ② まとめ						グループワーク (会話)	
評価 方法及び 評価 基準	<p>① 授業への参加度 (25%) ② ワークブック (25%) ③ 期末試験 (25%) ④ スピーキングテスト (25%)</p>									
課題等	<p>① ワークブックは白紙に答えだけを書いて提出してください。 ② 試験の形式は教科書の復習問題を参考してください。 ③ 最後の2時間にはスピーキングテストを行います。</p>									
事前事後 学修	<p>① 事前学修: 教科書に出ている単語で単語集を作成してください。 ② 事後学修: 教科書の各チャプタに対するワークブックに取り組んでください。韓国語の動画(映画・ドラマなど)を毎週1時間以上視聴してください。単語集の単語を覚えてきてください。必要な学修時間は週に3時間以上です。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>① オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級1 ISBN 979-11-85872-74-2 (データで配布) ② サイバー韓国語 初級1 ワークブック ISBN 979-11-6904-028-0(93710) (データで配布) ③ オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級2 ISBN 979-11-85872-75-9 (データで配布) ④ サイバー韓国語 初級2 ワークブック ISBN 979-11-6904-029-7(93710) (データで配布)</p>									
留意点	<p>① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。購入希望者は講師に連絡してください。 ② 課題・試験の解答用紙には必ず名前と学籍番号を各ページごとに書いてください。 ③ スピーキングテストの時間は必ず厳守してください。事前連絡無しで遅れる場合は失格とします。</p>									

科目名	韓国語 C		科目コード	W24028	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-28. S	時間	30時間				
区分	共通基礎科目	選択	担当者名	ケン・テホ				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>国際通用韓国語標準教育課程 1級に準ずる韓国語の文法、単語、表現を学びます。1級に準ずる韓国語を読む、書く、聞く、話すようになります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>① ハングルの読み書きができるようになります。</p> <p>② 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な約44個の文法内容を学びます。</p> <p>③ 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な約288個の単語を学びます。</p> <p>④ 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な色々な状況においての韓国語の表現を学びます。</p> <p>⑤ 韓国の文化を学びます。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	韓国語入門①：韓国語とハングル 韓国語入門②：基本母音		① 韓国文化の紹介、ハングルの歴史、ひらがたとハングルの違い ② 音節の構成、基本母音 (ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㆁ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㄷ, ㄷ, ㄷ)						グループワーク (会話)	
第2回	韓国語入門③：基本子音		① 基本子音 (ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㆁ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㄷ, ㄷ, ㄷ) ② 練習活用 (1)						グループワーク (会話)	
第3回	韓国語入門④：激音と硬音		① 激音 (ㅋ, ㆁ, ㆁ, ㆁ, ㆁ) ② 硬音 (ㄱ, ㆁ, ㆁ, ㆁ, ㆁ)、練習活用 (2)						グループワーク (会話)	
第4回	韓国語入門⑤：二重母音 韓国語入門⑥：パッチム 1		① 二重母音 (ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅟ, ㅡ), 練習活用 (3) ② パッチム (ㅇㄴㄹㄷㅂㅅㅈ), 練習活用 (4)						グループワーク (会話)	
第5回	韓国語入門⑦：パッチム 2 と連音 韓国語入門⑧：教室表現・挨拶表現		① パッチム (ㄷㅅㅈㅊㅌㅍㅍㅍㅍㅍ), 連音、練習活用 (5) ② 教室でよく使う表現・挨拶の表現						グループワーク (会話)	
第6回	初級 1-1：自己紹介 初級 1-2：家族		① 文法 (은, 이다), 挨拶、自己紹介 ② 文法 (이, 이 아니다), 家族の紹介、家族の職業の紹介						グループワーク (会話)	
第7回	初級 1-3：日常生活 初級 1-4：学校		① 文法 (습니다, 을, 도)、好きなもの、好きな食べ物 ② 文法 (과, 하고, 의)、学校の紹介、教室の紹介						グループワーク (会話)	
第8回	初級 1-5：天気 1 復習問題 1-1		① 文法 (-어요, -지 않다)、天気の表現、韓国の季節 ② 復習・復習問題 1-1						グループワーク (会話)	
第9回	初級 1-6：友だち 初級 1-7：位置		① 文法 (에게, 한테, 만)、友だちについて話す、手紙 ② 文法 ((장소)에, 에서)、位置について話す、部屋の紹介						グループワーク (会話)	
第10回	初級 1-8：日にち 初級 1-9：運動		① 文法 (-있-, (시간)에)、週末にしたこと ② 文法 (부터, -지 못하다)、好きなスポーツについて						グループワーク (会話)	
第11回	初級 1-10：約束 復習問題 1-2		① 文法 (-을까, -읍시다, -고)、提案、週末計画 ② 復習・復習問題 1-2						グループワーク (会話)	
第12回	初級 1-11：食べ物 初級 1-12：買い物 1		① 文法 (-어서, -고 싶다)、メニューを決める ② 文法 (-지만, 보다)、プレゼントのおすすめ						グループワーク (会話)	
第13回	初級 1-13：趣味 1 初級 1-14：旅行		① 文法 (-을 수 있다, -고 있다)、趣味について ② 文法 (-기 전에, -으려고)、旅行計画について						グループワーク (会話)	
第14回	初級 1-15：健康 1 復習問題 1-3		① 文法 (-은 후에, -으세요)、健康症状について ② 復習・復習問題 1-3						グループワーク (会話)	
第15回	スピーキングテストの練習 まとめ		① スピーキングテストの練習 ② まとめ						グループワーク (会話)	
評価 方法及び 評価 基準	<p>① 授業への参加度 (25%)</p> <p>② ワークブック (25%)</p> <p>③ 期末試験 (25%)</p> <p>④ スピーキングテスト (25%)</p>									
課題等	<p>① ワークブックは白紙に答えだけを書いて提出してください。</p> <p>② 試験の形式は教科書の復習問題を参考してください。</p> <p>③ 最後の2時間にはスピーキングテストを行います。</p>									
事前事後 学修	<p>① 事前学修：教科書に出ている単語で単語集を作成してください。</p> <p>② 事後学修：教科書の各チャプタに対するワークブックに取り組んでください。韓国語の動画 (映画・ドラマなど) を毎週1時間以上視聴してください。単語集の単語を覚えてきてください。必要な学修時間は週に3時間以上です。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>① オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 入門 (データで配布)</p> <p>② オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級 1 ISBN 979-11-85872-74-2 (データで配布)</p> <p>③ サイバー韓国語 初級 1 ワークブック ISBN 979-11-6904-028-0 (93710) (データで配布)</p>									
留意点	<p>① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。購入希望者は講師に連絡してください。</p> <p>② 課題・試験の解答用紙には必ず名前と学籍番号を各ページごとに書いてください。</p> <p>③ スピーキングテストの時間は必ず厳守してください。事前連絡無しで遅れる場合は失格とします。</p>									

科目名	韓国語D		科目コード	W24029	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目名バリエーション	W-BFCB0-35.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	ケン・テホ				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 国際通用韓国語標準教育課程2級に準ずる韓国語の文法、単語、表現を学びます。2級に準ずる韓国語を読む、書く、聞く、話すようになります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達目標	<p>① 国際通用韓国語標準教育課程2級に必要な約46個の文法内容を学びます。 ② 国際通用韓国語標準教育課程2級に必要な約251個の単語を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程2級に必要な色々な状況においての韓国語の表現を学びます。 ④ 韓国の文化を学びます。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	初級 1-16 : 交通 初級 1-17 : 招待		① 文法 (에서, 까지, -으십시오)、目的地まで行く方法 ② 文法 (-어야 되다, -고요)、家に招待する						グループワーク (会話)	
第2回	初級 1-18 : 余暇時間 初級 1-19 : 方向		① 文法 (-으니가, 으로)、目的地まで行く方法 ② 文法 (-으로, 이랑)、家に招待する						グループワーク (会話)	
第3回	初級 1-20 : 訪問 初級 2-1 : 天気2		① 文法 (-으시-, 께서)、友だちの家の訪問 ② 文法 (-겠-, -네)、天気を推測する						グループワーク (会話)	
第4回	初級 2-2 : 買い物2 初級 2-3 : 外見		① 文法 (에게서, 한테서, -어 보다)、買い物の場所 ② 文法 (-은, -는, 께)、外見の描写						グループワーク (会話)	
第5回	初級 2-4 : 買い物3 初級 2-5 : 注文		① 文法 (-는데, -는 것)、食材について ② 文法 (-을게, -기)、注文する時の表現						グループワーク (会話)	
第6回	復習問題 1-4 & 復習問題 2-1 初級 2-6 : 休暇		① 復習・復習問題 1-4・復習問題 2-1 ② 文法 (-은 적이 있다, -기로 하다)、休暇計画について						グループワーク (会話)	
第7回	初級 2-7 : 健康2 初級 2-8 : 映画		① 文法 (-게, -지 말다)、健康状態と治療方法について ② 文法 (-을 때, 밖에)、映画の予約について						グループワーク (会話)	
第8回	初級 2-9 : 休日 初級 2-10 : 学校生活		① 文法 (-는데, 마다)、休日についてする活動について ② 文法 (-는 것, -을 수밖에 없다)、大学の規則について						グループワーク (会話)	
第9回	初級 2-11 : 公共サービス 初級 2-12 : 対人関係		① 文法 (-다가, 에서부터)、物を紛失した時について ② 文法 (-은, 어 주다)、友だちを紹介することについて						グループワーク (会話)	
第10回	初級 2-13 : 家庭生活 初級 2-14 : 生活便利施設		① 文法 (-는 동안에, -으면서)、家事について ② 文法 (-지, -기 때문에, -음)、便利施設の利用について						グループワーク (会話)	
第11回	初級 2-15 : 配達 復習問題 2-2 & 復習問題 2-3		① 文法 (에다가, -으면)、食べ物の配達注文について ② 復習・復習問題 2-2・復習問題 2-3						グループワーク (会話)	
第12回	初級 2-16 : 衣服 初級 2-17 : 趣味2		① 文法 (처럼, -어도 되다)、定員との会話、ファッション ② 文法 (-을 때, -게 되다, 예게로)、趣味に関して						グループワーク (会話)	
第13回	初級 2-18 : 集まり 初級 2-19 : 家		① 文法 (-은 지, -어 있다, -는군)、招待について ② 文法 (-거나, 이나, -을까 보다)、生活環境について						グループワーク (会話)	
第14回	初級 2-20 : 約束 復習問題 2-4 & まとめ		① 文法 (-을, -을 것 같다)、提案することについて ② 復習・復習問題 2-4						グループワーク (会話)	
第15回	スピーキングテストの練習 まとめ		① スピーキングテストの練習 ② まとめ						グループワーク (会話)	
評価方法及び評価基準	<p>① 授業への参加度 (25%) ② ワークブック (25%) ③ 期末試験 (25%) ④ スピーキングテスト (25%)</p>									
課題等	<p>① ワークブックは白紙に答えだけを書いて提出してください。 ② 試験の形式は教科書の復習問題を参考してください。 ③ 最後の2時間にはスピーキングテストを行います。</p>									
事前事後学修	<p>① 事前学修: 教科書に出ている単語で単語集を作成してください。 ② 事後学修: 教科書の各チャプタに対するワークブックに取り組んでください。韓国語の動画 (映画・ドラマなど) を毎週1時間以上視聴してください。単語集の単語を覚えてきてください。必要な学修時間は週に3時間以上です。</p>									
教科書参考書	<p>① オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級1 ISBN 979-11-85872-74-2 (データで配布) ② サイバー韓国語 初級1 ワークブック ISBN 979-11-6904-028-0(93710) (データで配布) ③ オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級2 ISBN 979-11-85872-75-9 (データで配布) ④ サイバー韓国語 初級2 ワークブック ISBN 979-11-6904-029-7(93710) (データで配布)</p>									
留意点	<p>① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。購入希望者は講師に連絡してください。 ② 課題・試験の解答用紙には必ず名前と学籍番号を各ページごとに書いてください。 ③ スピーキングテストの時間は必ず厳守してください。事前連絡無しで遅れる場合は失格とします。</p>									

科目名	英語Ⅱ		科目コード	W24007		単位数	2単位	対象	2年	開講	通年
			科目ナンバリング	W-BFCB0-29		時間	60時間	学年		学期	
区分	共通基盤科目 教職資格科目	選択 必修	担当者名	ウォータース・グレン・ユースタス				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 In this course, the students will develop stronger skills to read and answer questions in English on a wide range of situations. Upon completion of the course, students will be able to confidently read, answer questions about and discuss past, present and future events</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>										
到達 目標	English II is a dialogue-based course for beginning students of English. All lessons have modern English vocabulary; each student will have many chances to practice all four skills (listening, speaking, writing, and reading) while focusing upon how to speak authentic American English. Feedback will be provided weekly by the teacher. The students will increase their communication ability by way of active learning. Working with a partner or in a group to help them understand each other.										
授業計画											
回	主題	授業の概要			備考	回	主題	授業の概要			備考
第1回	Course Orientation and teacher introduction	Instructor explains course objectives			pair-work, group-work and discussion	第16回	Course orientation and instructor introduction	Instructor explains course objectives			
第2回	UNIT 1 A world of difference	Students will learn to differentiate between tenses and understand negative questions.			pair-work, group-work and discussion	第17回	UNIT 7 Passions and fashions	Students will learn present perfect: simple and continuous, passive, adverbs, and time expressions.			pair-work, group-work and discussion
第3回	UNIT 1 A world of difference	Students will learn parts of speech: meaning, spelling and pronunciation, word of formation, and words that go together.			pair-work, group-work and discussion	第18回	UNIT 7 Passions and fashions	Students will learn about spoken English and answer questions about Soccer around the world.			pair-work, group-work and discussion
第4回	UNIT 2 The work week	Students will read about and practice present tenses: simple and continuous, stative verbs, and present passive.			pair-work, group-work and discussion	第19回	UNIT 8 No fear!	Students will understand idioms and body language.			pair-work, group-work and discussion
第5回	UNIT 2 The work week	Students will learn positive and negative adjectives.			pair-work, group-work and discussion	第20回	UNIT 8 No fear!	Students will read about and answer questions about Dangerous trips in history.			pair-work, group-work and discussion
第6回	UNIT 3 Good times, bad times	Students will learn Past tenses: simple continuous, past perfect, and also the usage of used to.			pair-work, group-work and discussion	第21回	UNIT 9 It depends how you look at it	Students will learn about conditionals and will be able to use them.			pair-work, group-work and discussion
第7回	UNIT 3 Good times, bad times	Students will read about Romeo and Juliet and be able to answer the questions in the unit.			pair-work, group-work and discussion	第22回	UNIT 9 It depends how you look at it	Students will learn and be able to use words with similar meaning.			pair-work, group-work and discussion
第8回	Review	Review quiz				第23回	Review	Review quiz			
第9回	UNIT 4 Getting it right	Students will learn modal and related verbs: advice, obligation, and permission.			pair-work, group-work and discussion	第24回	UNIT 10 All things high tech.	Students will study noun phrases: articles, prepositions, and compound nouns.			pair-work, group-work and discussion
第10回	UNIT 4 Getting it right	Students will read about and answer questions about kids in the 1970s and now.			pair-work, group-work and discussion	第25回	UNIT 10 All things high tech.	Students will read about and discuss "21st century city".			pair-work, group-work and discussion
第11回	UNIT 5 Our changing world	Students will learn future forms: will, going to, and future possibilities-may, might, could.			pair-work, group-work and discussion	第26回	UNIT 11 Seeing is believing.	Students will learn about past and present probability.			pair-work, group-work and discussion
第12回	UNIT 5 Our changing world	Students will read and study Future possibilities. Expressing the future and life in 2065.			pair-work, group-work and discussion	第27回	UNIT 11 Seeing is believing.	Students will read The Adventure of Sherlock Homes and answer questions.			pair-work, group-work and discussion
第13回	UNIT 6 What matters to me	Students will learn about informational questions.			pair-work, group-work and discussion	第28回	UNIT 12 Telling it like it is.	Students will study reported speech, reported thoughts, and reported questions.			pair-work, group-work and discussion
第14回	UNIT 6 What matters to me	Students will learn how to use adjectives and adverbs to describe people, places and things.			pair-work, group-work and discussion	第29回	UNIT 12 Telling it like it is.	Students will read and discuss about the people who changed the world.			pair-work, group-work and discussion
第15回	Wrap-up	Students will be able to understand the structure of English grammar and be able to communicate with each other.				第30回	Wrap-up	Students will be able to understand the structure of English grammar and be able to communicate with each other with confidence.			
評価 方法 及び 評価 基準	Class Participation:30%; Class Activities/Homework: 30%; Final Examination : 40%. Over 60% of total is needed to pass this course.										
課題等	Homework and assignments will be announced at the end of each lesson.										
事前事後学修	At least 30 to 60 minutes should be spent in preparation of each class and at least 30 minutes of review for each lesson.										
教材 教科書 参考書	American Headway Level 3 Student Book w/ MultiROM (ISBN: 978-0-19-472611-5), and American Headway Level 3 Workbook (ISBN: 978-0-19-472614-6)]										
留意点	Studying English as a second language is a cumulative activity. If you study English even a little bit everyday, you will enjoy this course more. Preparation ,review, a positive attitude in class is important .Students will work with their partner or group to experience pair working, group discussion as active learning.										

科目名	英語Ⅱ		科目コード	W24008	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-BFCB0-30	時間	60時間					
区分	共通基礎科目 教職科目	選択 必修	担当者名	奥野 忠徳			授業 形態	講義	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 様々な場面で自然な英語表現が使えるように徹底的なトレーニングをします。 会話で必要となる文法力と語彙力を鍛える徹底的なトレーニングをします。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。										
到達 目標	場面に即した英語表現が即座に使えるようになるのを目標とします。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	introduction	この授業で行うことの導入				第16回	使える文法・英語特訓 (15)	should (2)、英文の特訓 (15)			
第2回	使える文法・英語特訓 (1)	willとbe going to (1)、 英文の特訓 (1)				第17回	使える文法・英語特訓 (16)	should (3)、英文の特訓 (16)			
第3回	使える文法・英語特訓 (2)	willとbe going to (2)、 英文の特訓 (2)				第18回	使える文法・英語特訓 (17)	had betterとit's time to構文、 英文の特訓 (17)			
第4回	使える文法・英語特訓 (3)	ifとwhen (1)、英文の特訓 (3)				第19回	使える文法・英語特訓 (18)	would (1)、英文の特訓 (18)			
第5回	使える文法・英語特訓 (4)	ifとwhen (2)、英文の特訓 (4)				第20回	使える文法・英語特訓 (19)	would (2)、英文の特訓 (19)			
第6回	使える文法・英語特訓 (5)	can (1)、英文の特訓 (5)				第21回	使える文法・英語特訓 (20)	Can you/Could you ?、 英文の特訓 (20)			
第7回	使える文法・英語特訓 (6)	can (2)、英文の特訓 (6)				第22回	使える文法・英語特訓 (21)	仮定法過去 (1) (If …)、 英文の特訓 (21)			
第8回	使える文法・英語特訓 (7)	mustとcan't (1)、英文の特訓 (7)				第23回	使える文法・英語特訓 (22)	仮定法過去 (2) (I wish …)、 英文の特訓 (22)			
第9回	使える文法・英語特訓 (8)	mustとcan't (2)、英文の特訓 (8)				第24回	使える文法・英語特訓 (23)	仮定法過去完了、 英文の特訓 (23)			
第10回	使える文法・英語特訓 (9)	mayとmight (1)、英文の特訓 (9)				第25回	使える文法・英語特訓 (24)	受動態 (1)、英文の特訓 (24)			
第11回	使える文法・英語特訓 (10)	mayとmight (2)、英文の特訓 (10)				第26回	使える文法・英語特訓 (25)	受動態 (2)、英文の特訓 (25)			
第12回	使える文法・英語特訓 (11)	mustとhave to (1)、 英文の特訓 (11)				第27回	使える文法・英語特訓 (26)	it is said that構文、 英文の特訓 (26)			
第13回	使える文法・英語特訓 (12)	mustとhave to (2)、 英文の特訓 (12)				第28回	使える文法・英語特訓 (27)	have something done構文、 英文の特訓 (27)			
第14回	使える文法・英語特訓 (13)	must, mustn't, needn't、 英文の特訓 (13)				第29回	使える文法・英語特訓 (28)	間接話法 (1)、英文の特訓 (28)			
第15回	使える文法・英語特訓 (14)	should (1)、英文の特訓 (14)				第30回	使える文法・英語特訓 (29)	間接話法 (2)、英文の特訓 (29)			
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果(60点)、期末試験(40点)で評価します。 英語での会話が即座に正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。										
課題等	特になし。										
事前 事後 学修	事後復習は必要です。										
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。										
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。90分間一切気を抜くことはできません。										

科目名	海外研修 I		科目コード	W24030	単位数	1単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	前期
			科目名バリエーション	W-BFCB0-31	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス				授業 形態	演習	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 This course will prepare students for study abroad in the United States with programs sponsored by Hirosaki Gakuin University study abroad program in Western countries. 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。</p>									
到達 目標	This course is a study abroad preparation course that will prepare students for their experience abroad in the United States. Students will learn how to interact with Americans, deal with cultural differences during study abroad, and will understand the differences between Western and Japanese cultures.									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	Course Orientation and Program Introduction		Instructor explains course objectives and university study abroad programs. Reading assignment about western cultures will be explained.						Group Discussions	
第2回	On the Plane		Students will learn about what to expect when traveling to their study abroad experience & practice in pairs.						Create a dialogue	
第3回	Airport Arrival Procedures		Students will learn what to expect when they arrive at the airport and practice going through customs and immigration in pairs.						Fill out customs forms	
第4回	Meeting the Host Family		Students will learn what to expect when they meet their homestay family and practice greetings in pairs.						Create a dialogue	
第5回	Sharing Japanese Culture		Students will consider how and what to share about Japanese culture. They will also discuss gifts for host families as a class.						Explain a Japanese gift	
第6回	Taking the Bus		Students will learn how to use public transportation in America. Japanese Cultural Portfolio will be explained.						Cultural Portfolio Page	
第7回	Orientation		Students will learn what to expect when they begin orientation at their study abroad university.						Cultural Portfolio Page	
第8回	Making Phone Calls		Students will practice using the phone in English and discuss communications methods used with friends in pairs and groups.						Cultural Portfolio Page	
第9回	Seeking Medical Care		Students will learn how to get treatment for medical issues while studying abroad in America.						Cultural Portfolio Page	
第10回	Giving Presentations		Students will discuss how to give presentations in study abroad classes in groups.						Cultural Portfolio Page	
第11回	Shopping		Students will discuss foreign money and shopping in foreign stores; practicing in groups.						Cultural Portfolio Page	
第12回	Airport Departure Procedures		Students will learn what to expect when departing their study abroad and practice in groups.						Cultural Portfolio Page	
第13回	Keeping in Touch		Students will discuss how to keep in touch with friends and their host family after returning to Japan						Cultural Portfolio Page	
第14回	Cultural Portfolio Presentation		Students will present their cultural portfolios.						Cultural Presentation	
第15回	Review and Feedback		Students will review the lessons learned about how to prepare for study abroad.							
評価 方法 及び 評価 基準	Classroom participation: 10%; Cultural book reading assignment: 15%; Cultural Presentation (graded on content & English language accuracy using a rubric): 25%; Japanese culture version of the Cultural Portfolio (graded on content & English language accuracy using a rubric): 50%.									
課題等	Missed assignments should be submitted before the following class; the student is responsible for submitting missed assignments. Students will be asked to use their smartphones for class assignments every week.									
事前事後 学修	Pre-class reading materials and assignments should be completed and understood before coming to class. Expected preparation time: 30 mins. / day.									
教材 教科書 参考書	<i>Go! Global-Preparing for ESL Courses Abroad</i> , Lieb (2015), Sanshusha [ISBN: 978-4-384-33448-7]. The professor will also provide handouts and materials. Students must have access to a smartphone and a computer for classroom activities.									
留意点	Students must attend scheduled classes and must submit drafts and work according to the professor's requirements. Students should inform the professor PRIOR to absences whenever possible.									

科目名	海外研修Ⅱa (アメリカ)		科目コード	W24031	単位数	2単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	後期集中
			科目ナンバリング	W-BFCB0-32	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] This course provides students with credit for participating in study abroad programs sponsored by Hirosaki Gakuin University to approved study abroad program. [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。</p>									
到達 目標	This course documents credits transferred from Hirosaki Gakuin University-approved Study Abroad programs in the United States or other accredited English-speaking universities. Students must successfully complete a Hirosaki Gakuin University-sponsored study abroad program to receive credit for this course.									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
<p>The content for this course is based on the curriculum and syllabus of the study abroad program attended. Each program is unique and students must complete all parts of the program to receive credit.</p>										
評価 方法 及び 評価 基準	Successful completion of study abroad programs will be reported by the host institute.									
課題等 事前事後 学修	Students must follow the rules of the host institute for the study abroad program. Students must complete the preparation work required by the study abroad program before going to study abroad.									
教材 教科書 参考書	Textbooks will be determined by each study abroad program' s staff.									
留意点	Hirosaki Gakuin University students must compete 100% of study abroad program requirements unless given an exception by the host institute due to special circumstances.									

科目名	海外研修Ⅱb(韓国)		科目コード	W24032	単位数	2単位	対象 学年	1～4年	開講 学期	後期集中
			科目ナンバリング	W-BFCB0-33	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名					授業 形態	演習	単独
授業の 概要等	【授業の主旨】									
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事後 学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										